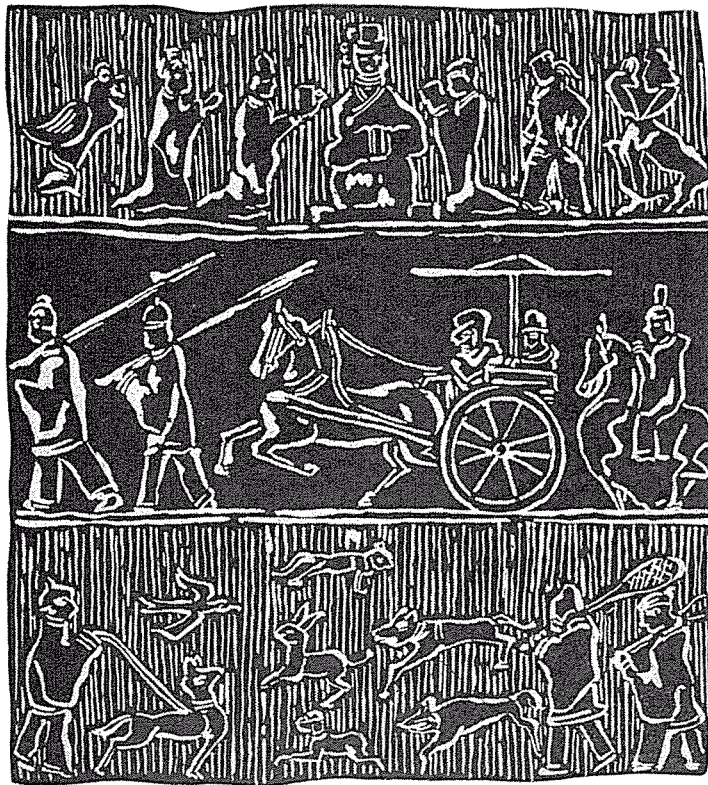


# 西大學生報

第 五 十 五 號

昭 和 三 十 一 年 一 月



關 西 大 學 學 報 局 發 行

大審院判事 和田于一 著

菊判總布極上製 上下通卷一六九八頁

各卷定價七圓 各卷送料 內地六十二錢 外地六十二錢

最新刊

# 判例契約解除法

來出卷下

稀愈 觀の 大の 著成

總べての財産的闘争は私法上に在りては、結局、損害賠償問題に歸著するのであるが、其の一步手前には契約解除の問題が横たはつてゐる。契約解除問題は全私法の中心問題たるを失はない。契約解除を中心として、私法の大體系が構成せられ得るものと謂ふも、必ずしも過言ではあるまい。従つて、契約解除法の研究は學問的に見て極めて重要性に富む。又財産的闘争に終始する實業界に在りては、一日として契約に關する争議の惹起せざることなく、裁判所に於ても、亦之に關する訴訟の審理せられざる日こそはない。従つて、實務の上より見るも、契約解除法の研究は、亦、極めて重要性に富む。

本書は著者が實務の経験に基づき十年の歳月を費して成りたるものであつて、判例に依りて生き、判例に依りて躍動する契約解除法を中心として、私法の大體系を組織せんと試みるものである。本書に於て、著者の主張を立證すべき驚くべき多數の判例が蒐集分類せられ、判例を通じて學説を窺ひ、學説を透して判例を検し、以て、契約解除法の領域に於けるあらゆる問題は、周到綿密なる解決が與へられて亦遺漏なしと謂ひ得るであらう。學界、法曹界及び實業界の諸賢の座右に推薦して、其の日常の使用に供せられんことを望んで已まない所以である。

和田博士 好評書五種

## 夫婦財産法の批判

菊判背革上製 紙數八五〇頁 送料價廿貳錢

婚姻法論 (普及版)	定價貳圓五拾錢 送料拾四錢
親子法論 (普及版)	定價貳圓五拾錢 送料拾四錢
親族法總論 (親族法大綱 第一分册上)	定價壹圓拾錢 送料拾錢
親族法總論 (親族法大綱 第四分册)	定價八拾錢 送料拾錢

大東圖書院 前學大央中臺河駿京東 番八三二一八京東替振 番八二二二田神話電



# 國家至上精神

學長  
法學博士 神戶正雄

## 目次

國家至上精神……………	神戸正雄	(一)
日本精神の中心概念…牧健二		(六)
シルレル素描……………	奥宮精一	(七)
學内報……………		(一〇)
各期授業日程—學生生徒募集—南京陥落祝賀式—日本文化講義—教育部國語漢文科學力調査試験—教練査閲—防共協定成立祝賀大會—高學聯合演習参加—かくほう抄—應召軍務公用者		(一〇)
昭和十二年中の執筆便覽……………		(一〇)
校友……………		(一三)
校友會會則改正並に校友會館建設調査委員會—大阪支部—福岡支部—大連支部—五條會—動靜移動		(一三)
由斯會應募映畫脚本審査發表……………		(一七)
全大阪大學高專學生		(一九)
防共協定成立祝賀大會……………		(一九)
關大スポーツ……………		(二〇)
航空—自動車—籃球—ホッケー—庭球—野球—卓球—蹴球—米式蹴球—ラグビーフ—エンシング—馬術—相撲—拳闘—柔道—弓道—拳法—山岳—射撃		(二〇)
學生……………		(二三)
大學院研究會—東亞研究會—佛教青年會—基督教育青年會—新聞部—辯論部—浪曲研究會		(二三)
學報俳壇……………		(二六)
學友會會員名簿申込者に告ぐ……………		(二六)

此文は、私が最近、本學にて試みた文化講義の要領である。文部省は、全國の大學、高等學校専門學校に文化講義の開設を指令した。本學も之に従つて此度、此講義を開始した。其講義は、日本文化を明かにし、日本精神を養はんとするを目的としたものである。蓋し我邦の學校に於て、從來動もすれば智育に偏し、外國の智識を吸收するに力を用ひ過ぎて、日本文化を知らず、日本精神を忘れる者の少からぬのを矯正しようといふのである。本學はかねてから教育方針として、德育に重きを置き、國家精神の涵養に努め來つた所であり、教職員は協力して、機會ある毎に、又、其講義の間にも、學生生徒に日本國民としての自覺を促がすことに努められつゝあるのだから、特に文化講義を開く必要なきほどだとも認めらるゝが、併し文部省よりの特別の指令もあること故、學生生徒に一層の注意を促がす爲め、此講義を開始したのである。

私は茲に此題下に、日本精神の眞髓を説き、此に附帶して日本文化の要點を述べる。日本精神が何か、其中心思想は何かにつきては人により解釋が異なるけれども、私は日本精神の眞義は、國家至上の精神であると思ふ。國民が國家をば最大切なものと爲し、國家を無上に愛し、國家の爲めに力の限りを盡し、國家の爲めには凡べてのものを犠牲にするといふ精神、是が日本精神の要素だと信ずる。

私は、先づ一般に、人にとりての國家の大切である事を明かにし、次ぎに日本國民に取りての日本國家が特別に貴きものであることを説く。

凡べて人間に取りては國家が大切である。之を明かにするについては、先づ以て道義が人にとり

て大切なものである事から説き起す。元來、人間は本能として第一に生存慾をいだく。生きたいと考へる。生きるが爲めに食ひたしと思ふ。廣くいへば衣食住を求める。段々と整澤もいふやうになる。かやうにして經濟生活が初まる。其處で經濟生活が人間にとりての第一の問題となるのだが、併し人の生活は之にて終らない。衣食足つたる後には、やがて禮節を求める。即ち道義生活を貴ぶやうになる。人間性の中には善をも有つて居り、人には道義を此上もなきものとして認める氣持があつて、人間の人間たる所以、人間の神に近き所以、人間が禽獸と異なる所以は、實に此に存するのである。人間が人間らしくなる爲めには道義を貴み、道義生活を完うすることを最高目標とし、そして經濟生活をば單に之が手段とすることになければならぬ。人々が道義を重んずるやうになつて、社會に於ける文化が進んで来る。更に人々の福祉も増進する。洵に氣持の良い世の中になつて来る。人間の爲めに文化を進め、福祉を増すものには、道德の外に、智識の進歩がある。此が精神生活としては大事な一面である。併し此智識の進歩といふものは、其が文化を向上することとは確かであるけれども、其爲め人間を苦しめることの少くないといふ事があつて、福祉の増進を來たすやには疑が残る。然るに道義の向上に至りては、全く以て、其社會に於ける文化をも、福祉をも併せ完うすることに役立つ。道義こそは人間にとりて最大切なものである。

道義が人間にとりて最大切なものであるとして、其道義中にも、國家を愛するといふ道義は其最大切なものである。國家を愛することが高き道義であるばかりでなく、國家其ものが道義的要素を備へたものであつて其點からしても之を大切になくはならぬのである。

國家を愛し國家に忠誠を盡すといふ道義は、國民が其國家の中に生活

を遂げ、生命財産の安全を保ち、文化福祉を享受するを得て居る事實から、此限りなき貴き恩義に對して報ゐる所がなくてはならぬといふ、報恩の情から必然に發生するものであり、其は人間性に基く最自然的なものである。更に之を理論的に考へるときに、國民各箇のものは、歴史の必然的產物たる、人間の政治的性質から出來た所の國家といふ有機的組織の一節として、其國家とは不可離の關係にあるものであり、隨つて其有機的全體の爲めには、其能力に應じて出來るだけのものを盡すべきものといふことになり、彼は必然的に國家を愛し、國家の爲めには有らゆる犠牲を辭してはならぬといふことになる。又、別の見地からすれば愛國といふことは自愛と他愛との極であり、自愛と他愛とを包容し、自愛と他愛とを超越した、其等よりもより大な道義である。人は自らに自愛を愛し、隨つて自己を尊重し、自己を正しくしやうとするものであり更には他人を愛し、親としては子を愛し、子としては親を愛し、兄弟に友に、夫婦相和し、朋友相信し、その他、隣人を愛し、隨つて他人に向つて色々と親切を盡すものであり、又、盡すべきものでもあるが、此等凡べての愛から出發した道義は、愛國の下に行はれ、愛國の中に含まれ先づ愛國の誠を致して、其國家を向上することが、此等の自愛及他愛を全うする所以となる。凡べての各個人に對する道義よりも、此愛國といふ道義が、より高きものだといふことになる。茲に愛國といふ道義よりも、人類とか世界とかへの道義の方が一層高いものではないかとも考へらるゝが、他日、世界統一國家の出來たときは別として、其までの間、隨つて想像すべき近き將來にては、國家が人間の政治團體としての最高團體であり、人は國家の下に生命財産の保護を受け、文化及福祉を享受するの外なく、此等のものを完うするには、國家を整備するを要し、

人々が現代に於て其自愛他愛を完うするのには、先づ國家を完備しなくてはならず、國家をば何よりも一番に愛し、其爲めに日常の有らゆる努力を向け、其爲めに有らゆる犠牲を拂ふことゝならなくてはならない。

國家が道義的要素から成り、國家自體が一の道義的の機構だといふことについては、聊か説明を要する。普通に、國家は一の力の關係から成るものとせられる。詳しくいふと、其は國土と人民と主權とから成るといひ、其の主權といふ詞の中に權力服従の關係を示し、此三のものが力、權力、強制力によりて結合し、固着したものとせらるゝが、そして其は確かに國家の一面を捉へては居るが、そして又、國家は歴史的には此の如きものとして發生し發展し來つては居るが、併し其が段々と進化し成熟して來ると、一層精巧なものとなるべきであつて、其上にも、道義的要素たる結合力、化能力を生じて來る。此が一層強くなればなるほど其國家が理想的に完備したものになる。國家に於ける各成分の關係が單に強制とか權力服従とかの關係である限りには、其國家は永續性を缺いて居り、屢々、革命、變革、擾亂、混亂に出會はなければならぬ。又、此權力のみに倚賴するときに、之が濫用ともなり易い。最恐るべきことである。然るに道義的結合關係を生ずるときに、國家團體は眞に永續性を有つた、最も強固なものとなる。其の國家に於ける道義的なる結合力といふのは、一言にしていへば和であつて、君と民との和、民と民との相互の和、人と物との和などの良く行はれることを期する。詳しくいふと、君主、主權は人民に對して或事を命令するけれども、其實行につき強制を振り廻はさず、寛容なる其自らの徳の力によりて自らに行はれるやうにする。人民も亦た主權の命ずる所を理解し、諒承し、共鳴し進んで又喜んで従つて往くことゝなるのが其である。そして人々は主權

の期待する所に協力し、更には人々相互の間に他の人格を尊重して侵さず、相争はず、協調を旨として往くのである。かくして國家の内部に徳が充つるといふことになれば、其は即ち理想の國家である。現實の國家は此目標に向つて向上しなければならぬ。そして現實の國家に於ても未だ不十分ではあるけれども、或程度まで、斯かる道義的要素があり、其だけにては、凡て國家をば一の道義的な機構とすることが出來、此意義に於て、此國家をば大切にしなければならぬといふことにもなる。

次に日本國民にとりての日本國家の大切なことに説き及ぼう。此は二の方面より見ることが出來る。一は客觀的に見たものであり、他は主觀的に見たものである。前者は日本國民自らが見て然るのみでなく、世界の何國人から見ても、日本國家は良い國であり、羨むべき國であるといひ得る點であり、後者は日本國民自らの立場から日本國家を一番良き國家、何ものにも代へ難きものと見るべき點である。先づ前者から説く日本國家をば客觀的に見る。其は歴史、自然、文化の三方面より觀察し得る。先づ其歴史から見る。いふまでもなく、日本國家には三千年の長い歴史がある。一國家として是れほど古い國家はない。支那にはもつと古い歴史はあるが、主權は幾たびか變つて居り、元朝にしる、清朝にしる北夷から起つて漢民族を支配したものであり、支那は漢民族自身のみで作つた主權の下に於ける國家ではない。米國の如きに至つては諸國民の寄合から出來た新しい國家に外ならぬ。歐洲諸國の何れを探しても凡てが比較的に新しいものばかり。かくて我國には歴史の産物たる幾多の、數へ切れぬほど多くの記念物が存在して居る。諸の傳説が存在して居る。我國の山野に於ける一木一石にも歴史を傳へる意味深いものがある。歴史を有つ我等日本人は其をば、うつかりとして居るが、歴史の



短い外國人が日本に来て見ると、日本國民をば實に惠まれた國民として羨しく感ずるのである。そして日本國內にある數多な歴史産物の中に天皇室ほど貴きものはない。世界中一番古い主權として存在せられ、我國の文化、道義、教育、慈善、名譽の源泉として、政治の中軸として、日本國家を萬古不動にして、又益々向上發展するの國家たらしめて居られる。皇室は教育勅語を下賜して、國民の道義の大本を示され、教育の方針を樹てられた。皇室は社會救済には率先して此事業を推進して居られる。皇室は又、名譽を下して賜ふて、各方面に於ける國民の活動を刺戟して居られる。我國の政治、國策も、皇室あるによりて終局、歸一し安定を得て居る。他の國々にては、到底、我國ほどの政治の安定は望まれないのである。

次に我國の自然を見る。我國の地位は東亞の前面、亞細亞大陸の東側に連なる嶋から成りて、政治上にも經濟上にも文化上にも、亞細亞にも伸び易く、そして太平洋を支配しつゝ、對岸の、南北亞米利加、濠洲、南洋諸島にも伸び行くに都合良く出來て居る。此點にても露西亞や獨逸などの如き偏在した地位にあるものと比しては非常に惠まれて居る。我國の地勢からいふも、山川湖沼に富み、小いながらに平野もあつて、産物の種類も自ら多様であり、風景にも變化が多く、瑞西などの如く風景は宜しいが、山と湖水との單調なる風景であるのに比しては、國民の目を樂ますに一層効力が大い。山野に於ける自然の色彩の多様なることも國民の美術心を進める上に、自ら役立つて居る。國民の情操を和ぐるにも大に役立つて居る。日本が假りに蒙古の砂漠の中にもあつて風景に惠まれなかつたとしたら、國民は何んなに不幸であつたであらうか。そして日本は氣候にも惠まれて居る。國土の中に熱帯もあれば、溫帯もあ

り、寒帯もあり、其の爲め色々多様な産物をも生じて居るが、大體は溫帯地域にあつて、凌ぎ好く、而かも一年中春夏秋冬の變化があつて、其春秋が割合に長くつゞき、此寒暑の變化あるが爲めに、身體には抵抗力を強め、精神には活動力を興へて居る。熱帯地方の如く怠けて居ても自らに生活し得るほどでなく、年中溫暖ある爲めに身心ともに墮するといふやうな事もない。此點からしても最惠まれた氣候を有つものといふて良い。強めて日本の自然の缺點はといへば火山が多く、地震に屢々見舞はれることであるが、其代りには溫泉が到る處にあつて國民を樂ませ居る。も一つには風景が小規模で、自然の環境が人間をせまこましくするといふこともあるが、併し國民が海岸に立つて、際涯なき太平洋を眺めたら、氣宇を大きくすることが出來ぬこともない。

次に日本の文化は何うか。日本の文化は一朝にして出來たのではない。單に明治維新、乃至歐米との交通を初めてからのみ出來たのではない。物質的文化は新しい發達にかゝるけれども、精神的、道義的のもの、夙に建國以來あつたのである。我國民は包容力が大い。自我に執着しない。古來、採長補短を旨とし、他國の長所を採り入れることに努め外國の、古くは支那、朝鮮、印度などの文化を採り入れ、近くは歐米のを採り入れ、其等を咀嚼し消化して、我物とし、己れの血と爲し肉と爲して、特有の文化を創りつゝある。道義、道徳については教育勅語に現はれたる日本特有のものが出來て居る。美術については、繪畫にても歐羅巴に於ける寫實的な自然描寫的なものに對して、印象的なもの、裝飾的なものに特有の價値を發揮して居り、彫刻などでも、西洋の寫實的なものに對して、象徴的、精神的で、氣高き、神々しさの溢れた特性を現はして居る。自然科學は西洋に教へられた所多く、彼に負ふものが少くはな

いが、今日にては或度まで彼と比肩するだけの發達を成して居る。軍事に至つては西洋的なる武器に、日本固有の精神力を結合して、如何なる敵國にも抗爭し得る獨特のものを仕上げて居る。法律制度も、外國に學び併し日本特有の事情を顧慮して、憲法、民商法、刑事法、其他の諸制度を整へて居る。經濟に至りては、經營及技術に於て最高の能率を擧げて居る上に、日本國民固有の質素なる生活に基づく所の割合に低廉なる給料を結合して、外國よりも有利なる地歩を占めて居る。尤も此有利には、其他にも、動力や、爲替や、金利などに於ける附帶的便宜も與つて力がある。そして此文化を促進する國民の性質としては、良い方からいふと、機敏、勇氣、進取などの美德を有つて居ることで、此れあればこそ、戰爭にも敗れぬし、經濟上の活動にも不斷の進展を見せて居るし、科學の發達にも貢獻しつゝあるのである。關東の大震災火災後の東京、横濱の復興、滿洲國の建設、朝鮮の隆昌など、日本國民の何處に悔るべからざる力のあることを證するものにあらすして何であるか。

更に之を主觀的に、日本國民自ら日本國家を考へる。かゝる見地に立つて見れば、前記、客觀的に見たものゝ凡べてが、矢張り此にも當るのであり、日本國民は日本國家の歴史、自然、文化を顧みて、其の有難さを感じない譯に往かぬであらうが、其外にも、日本國家をば特に有難きものとして、大切なものとして考ふべき所以のものがある。即ち第一に日本人の人種が今日の世界の支配國民たる英米露獨佛伊などの人種と異り、有色人だといふことであり、其爲め日本國民は歐米人とならうとし彼國に歸化しやうとしても六つかしく、假令歸化し得たとしても、向ふの仲間から輕侮せられることになる。だから日本人が世界に出で、雄飛しやうと思はゞ、先づ日本國家を偉大なものとして、其國家の國民とし

て發展するより外はないのである。第二には日本人の性質には何れかといへば個人として弱く、團體として強くなる傾がある。日本國民は國家の背景の下に世界的に活動するを得策とするのである。其點からしても此日本國家を大切に於て此國家を有力のものとしなければならぬ。第三には、日本人にとりての日本國家は、かゝる理由の上から大切なものであるばかりでなく、其が日本國民の心から自然に發露する氣持として、日本國民には自ら、生れながらにして愛日本國家心を有つて居り、其が理論を超越した、日本人の共通なる感情であり、又、一の信仰でもある神秘的なものであるといふの外ない。

以上いふ所の如くで、一般にいふても國民に取りて國家は大切なものであるが、特に日本國民に取りては日本國家が特別に大切なものであるから、我々は其生活上に於て、日本國家を至上のものとして、之を愛し之が爲めに盡し、之れが爲めには有らゆる物を犠牲にするの精神を中心として往かなければならぬ。そして日本精神はつまり此國家至上精神に其中心を有つのである。今や時局に際會し、此日本精神は遺憾なく如實に發揮されつゝある。其をば單に一旦緩急ある場合のみでなく、日常にも發揮しなければならぬ。戦局は幸にして忠勇なる將士の奮闘によりて着々勝利を收めつゝあるが、此戦後の跡始末には、更に一段と努力しなければならぬものが残る。凡べては國民に於ける國家至上精神の發露に待たなければならぬ。日本國家は此度の戰爭によりて確かに一層、國威を伸張することを得た。之をば確實に持續し、更に向上せしめるのにも亦た實に此精神の十分なる發揮に待つ所である。私は我國民が此點について大に自覺せんことを望んで己まない。

# 日本精神の中心觀念

講師  
法學博士

牧 健 二

日本精神が如何なるものであるかに就ては諸家の學說あることながら、私は個人の名をすて全體の名に生きやうとする精神が、日本精神の中心觀念をなすものと思ふ。古代の神話を見ると神々には名があつて、其名は神々の徳や性格をあらはしたものになつて居る。古事記や日本書紀や祝詞などに見える神話の體系が出来た由來については色々臆説をなす人もあるが、それは別として、神話の神々には名があつて、各自の徳と性格とを備へつゝ、其等が集つて大きな組織をなして居る。所謂八百萬の神々となつて居るが、それで天照大神をめぐる高天原の神界が組織された。天神の代を去り地神の代になると、日本の國と諸氏の祖先の神々が現はれる。それから古代に於ては、天皇を中心として諸氏の秩序といふものがあり、諸氏は夫々其氏の世襲の職をもつてあつた。かくして天皇を中心とした國家の秩序といふものと、諸氏族の名と云ふものが重なるものとなつて来るが、前者については聖德太子の頃から支那との交通に刺戟されて日本と云ふ名が強く現はれ、天皇は天津日嗣高御座の業をつがるゝと云ふ名

をもたれ、此名の下に官位官職を設けて諸臣を統べ給へば、諸臣は祖名を重んじて其職をばげむのであつたが、後者については萬葉集の大伴の家持の歌に見られるやうな精神を見るのである。祖先以來の清い家の名を汚さないやうにして益々家名をあげようとする精神は、殊に武士に於て見られるところで、其表現は源平盛衰記のやうな戦記物に見えた名乗の慣習に於て見られる。武士道の美德は實に没我の精神にあるが、それはひとり主君の爲に身を捨てるといふのではなくて、家の名の爲に我を忘れると云ふ精神の結びついたものである。武家政治になると朝廷は政權から遠ざかられるようになり、公けに奉ずる精神は主君に仕へる精神の方に移つた。又佛教の信仰が昂まると彌陀如来の名を唱へて之に歸依すると云ふようなしになるが、併し前者は物質生活の爲に起つたことであり、後者は生命と靈との問題である。國家生活と家族生活とは、傳統的な精神を失はなかつた。國家としては日本の國神は天照大神であり君主は天皇であらせられると云ふ信念は消え失せなかつた。家が重んぜられて個人は家名

をつぐものであり、家名を汚してはならぬと云ふ信念もつけられた。徳川時代は武家政治完成の時代で、天皇は虚位を保たれた有様であつたが、それは政權から云つたことで、國王の名に至つては徳川氏と雖も之を紊りにすることが出来なかつた。外國の國書には徳川氏を國王と書いたものがあり、學者の中にも天子と國王とはちがふから徳川氏を國王と云つても差支へぬと論じた者があるが、何れも都合が悪くて將軍は外交上大君とよぶことにしてゐた。國王の名は皇室を離れなかつた。日本と云ふ國家の觀念は天皇を中心として動搖しなかつた。日本の國家が國初以來變らぬものと云ふ觀念は、かう云ふ國體の中に窺ふことが出来る次に家に就ては武士は封祿をつぐことを家名相續と云つて、家名を財産視する風が出来てをり、庶民にもかう云ふ風があつたが、家を重んずる風は武士にも庶民にも強かつた。家と云つても百姓の如きは苗字のないのが通例であつたけれども、其代り村の觀念が強くてどの百姓も何村の誰と云ふやうに、村の一員であると云ふことが強く意識されてゐた。總百姓が作つてゐる村の共同體といふ觀念が甚だ強いのである。村でも町でも産土神があつて精神的な團結が出来てゐた。儒者や國學者によつて國體の自覺が鼓吹され、大義名分をやかましく云ふのであるが、日本の大義名分は萬世一系の天皇の御名の下に歸一する心であつて、支那の儒教のやうな君は君たり臣は臣たり、父は父たり子は子



# シルレル素描

講師 奥宮 精 一

ドイツの國民詩人シルレルに就いて、アドルフ・シユテルンの「一般文學史」より一節を譯出した。尙ほシユテルンに關しては「學證」四十一卷六號、茅野博士の文參照せられたし。

十八世紀の終りに當り、ドイツ文學の永久の勝利を決定した詩人中、ゲエテに次ぐ所のシルレルも、その理想と心的特質とを總括して見ると、矢張かの疾風怒濤時代の子であつた。だが彼も此時代の激しい不安と無制限な野性とから脱して、明朗な美、並びに自由ではあるが節度を失はぬ自己限定、此の二つを目懸けて努力せねばならなかつた。此の途上に於てゲエテと共に勤み合つた事は、二人の詩人に取つて非常に幸福であり、ドイツ文學の後の發展に大なる影響を與へた。

フリードリヒ・シルレルは聯隊附外科醫にして後の陸軍大尉ヨハン・カスバル・シルレルの息として、一七五九年十一月十日、ウエルテンベルヒ公國の小都會マルバツハに生れ、少年時代を同地レムス河畔のロールヒ及びリードウイヒスブルヒで過し、同公園のカール

君公のアカデミー、即ちカール高等學校に入學し、初め法律を學んだが、間もなく醫學に轉向した。此の在學中に彼の將來の針路は、己に決定してゐた。何となれば一七七七年に、當時の青年を動かした最も激しい感動的な、光彩陸離たる、荒々しい感情を、最も力強



く表現した悲劇「群盜」(日本映畫「戰國群盜傳」の原本であると云ふ)を彼は作り始めたから。卒業後、アウジエ聯隊(軍醫として入隊、間もなく「群盜」と「詩集」(詳しくは「一七八二年のアントロギー」)とを出版して公衆の前に現れた。此の詩集は彼及びその仲間の狂信的な美文句調で書かれ、野性の火に燃えた如き青

たりと云ふ五倫五常式なものではない。國でも家でも村でも町でも、主従の關係でも歴史といふもの傳統と云ふものを尙とぶのである。要するに個人の名は國とか家とか村とか町とか主君への奉公とか云ふ一層大きな關係の中に包まれて、其名の爲に盡すと云ふ精神が長い歴史の間に成立したのである。其中最も大きな關係は天皇を中心とする日本國であるが、日本近世の國家や國民の自覺なるものは、元來市民的な自覺ではなくて大義名分の自覺であり、個人の自我ではなくて没我的なものであつた。其處に一個の特色がある。明治維新は天皇への復歸を以て行はれ、それから新らしい政治の形體が天皇の御名の下に作られた。日本の國家と國民との自覺は、國際關係に刺戟されて大に昂められたが、日本精神といふときには日本人として日本の爲に奉仕すると云ふ没我的なものが、中心觀念となつてゐるのである。それは利害を離れて日本といふ名、天皇といふ御名に歸向する清操で、其前には個人の名を没せしめて以て安んずる精神である。かう云ふ精神が本になつて、日本が維新以後今日のやうな急速の發展をとげたのである。日本の變革期とか非常時とかいふ時の歴史を見ると、かう云ふ日本人的な氣持がよく現はれて居る。

(本稿は十一月十八日千里山豫科講堂並に天六學舎講堂に於ける日本文化講義の概要である。)

春の叙情詩の見本である。又「群盜」が警物として、芝居として受けた熱狂的な喝采は獨裁的なカール公の不興を招き、公爵はかくの如き制作を今後諦めさせようと思つたが、シルレルは遂にシュツトガルトへ逃れてしまつた。於是、故郷もなく實力もなき作家はマンハイムに於て幻滅の悲哀を嘗め、第二の悲劇「フィエスコ」は突き返されたので、一七八二年の冬から翌年かけてマイニンゲン領のパウエルバッツハで田園に隠遁する事で満足せねばならなかつた。その夏に又マンハイムへ戻り、同地の劇場附作者となり、あまり愉快でもない経験と印象とを得て翌々年春まで滞留した。然るにクリスチヤン・ゴツトフリート・キョルネル、フーベル、彼等二人の許嫁ミンナとドロテア、是等四人のライプチヒ在住のシルレル崇拜者との書信によつて結ばれた理想家らしい友情がシルレルを同地に引寄せた。そこで彼は一七八五年四月同地に到着したが、ドレスデンの宗務局評定官となつてゐたキョルネルは八月に結婚して、友人達をドレスデンに招いた。此地でシルレルは同年秋から翌々年夏迄、生れて初めて快適な生活を楽しみ、「ドン、カルロス」を完成し、歴史研究によつて自己教養を完成しようと思ひ付いた。然るに一七八七年の夏、彼は確たる將來の計畫もなしにワイマルに赴いた。先是、ワイマルのカール・アウグスト公はシルレルをマンハイム時代にダルムシュタットで知り、顧問官の稱號を與へて、當時の彼に取つ

て根本的な世話をしたのであつた。其後シルレルはルードルシユタットのレンゲフェルト家の姉妹と懇意になり、一七八九年五月にイエナ大學の歴史教授に就任した後、夏には妹の方のシャルロッテと婚約した歴史研究を深める爲、又それを論文に書いて存在を確保する爲、彼は餘儀なく詩から遠ざかつた。又大病の後、丁抹の崇拜者からの多年にわたる年金によつてパンの爲の著作をしなくなつた時に、再び詩的生産を行ふ元氣を出すに際し、人生の根本問題を明かにして置く事が、内心の要求となつた。彼はカント哲學の研究を始め、多數の論文の中で此の哲學を美學問題に適用し、藝術と調和させ様と試みた。一七九四年夏には從來懇意でなかつたゲーテとの親近が始まつたが、之は雜誌「時の氏神」(ホーレン)や「美神年鑑」(ムーゼンアルマナツハ)の編輯がゲーテを要求したからである一聯の哲學的、叙情的詩作を以てシルレルは翌年より再び詩の世界に立戻り、あの偉大な「ワレンシユタイン」の創造を始めた。彼を早世に導いた肉體的苦痛と常に戦ひ乍ら、絶えず男々しくもそれに打勝ち、精神の曇りなき明朗性を保ちつゝ、大學の活動を再び始めもせずに、一七九九年秋迄イエナで暮した。ゲーテの指導してゐる宮廷劇場とワイマルの藝術愛好の交際社會とに直接屬したいと云ふ希望は、「ワレンシユタイン」の成功と、残りの生涯を全く創作に献げる決心により、一層盛となつた。愈々彼はワイマルに移り住む

事となり、ゲーテやその老若の友人達、シルレルの義姉カロリーネ・フォン・ウオルツオーゲン、その真人等と親密な交際を爲し、宮廷から非常に優遇され、一八〇三年には公爵の推舉により世襲華族に列せられた彼の體力は目に見えて衰へたが、ワレンシユタイン三部曲に始まり、未完成の「デメトリウス」に終つたあの數々の力強い作品を肉體から刻み出した。一八〇五年五月九日彼は遂にその長き病苦に瘞れた。彼は早世したにも拘はらず、獨乙の最もポピュラーな、人氣ある詩人となり、その重要性、聲譽、國民大衆に及ぼした影響は次第に増大して行く。

如何なる他の詩人も比較しがたい全く獨自なシルレルの出現は、ゲーテによれば、「彼の本性中の直觀と抽象との奇妙な混合」に基いたものであつて、それをシルレル獨特な詩の中に溶かし込んだのであつた。他の詩人達と違つて、彼は具體的現象から出發する事は稀どころか殆んどなく、常に一般觀念から出發したのであつて、此の觀念は彼の作品の發展經過中にあつていつも完全な詩に變化してゐた。彼は修辭法をひどく使用したにも拘はらず、所謂美文家ではなく、又彼の性質は哲學的ではあるが、單なるお説教文學に墮さなかつた。直觀を後方に追ひやる程調子の高い、全ての生命ある者をいはゞ自己の光によつて打ち負かす程の靈感が、彼の作品に神々しさを與へ、又多方面にわたつた精神的な本性に統一を與へた。

シルレルの壯年期の戯曲、即ち「群盜」「フイエスコ  
或はゼノアの叛亂」「たくみ（詭計）と戀」は火山の様  
に荒々しい、革新的な作品であつて、夫等は誇張と  
つゝる言葉の激しきとの他に、純粹に劇的な本質と構  
造、人心を引付ける場面の幻想、精力的な性格描寫、  
雄勁な筆力などを示し、疾風怒濤時代の一般精神に全  
く新しい要素や、政治的情熱を附け加へたのである。

「ドン・カルロス」の中で此の詩人は彼の性質の藝術  
的醇化に勉め、劇中のゴザ侯爵に具體化した様な政  
治的理想主義や狂信的人道主義に深く沈潜したので初  
期の悲劇を特長附けた如き劇のプロポーシヨンや筋の  
緊張した進行は無くなつた。又此の時期の叙情詩「希  
臘の神々」「藝術家」等は彼の藝術的、道德的醇化への  
努力を示してゐる。

彼の歴史研究は「和蘭聯邦没落史」を以て始まり、歴  
史的回顧録等の優れた一聯の論文や「三十年戦争史」  
によつて續けられた。此の事に就てゲーデツケは獨乙  
文學史綱要の中で云ふ、「國民の歴史家たらんとする努  
力からして、獨乙の歴史研究に確かに一時期を劃する  
程の勞作が生れた。根本史料研究に於ては夫等は或は  
他のものに凌駕されるかも知れないが、浚渫さや上手  
な叙述の點では之に及ぶものはない」と。シルレルの  
美學、哲學上の諸論文、その中でも「美的教育に關す  
る書簡」「優美と品位とに就て」「素朴の文學及び感傷  
的文學に就て」が特に重要であるが、之等のものが彼

を歴史から文學へ引き戻した。其他獨乙の詩の中で最  
も觀念的、思索的な創造に數へらる可き彼の哲學詩、  
及びシルレルが關與し、勇氣と不屈の理想主義を示し  
た「クセニエン」（一群の諷刺詩）や、國民の各階級殊  
に青年間の寵兒となつた生き生きした華美な物語詩な  
どを作つた後、彼は再び自己の天職なる戯曲に移つ  
た。

三部曲「ワレンシュタイン」（ワレンシュタインの  
陣營）「ピツコロミニ父子」「ワレンシュタインの死」  
より成る）は内容及び規模の點から見てシルレルの劇

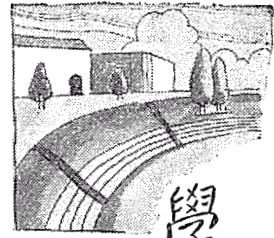
南京 陷落	喜多村翠竹
侮我排吾焉 足患	皇旗所向潰夷壘
都城忽陷萬邦愕	獐鴛老獅何有顏

作中最も力強い大きなものであり。性格悲劇であると  
同時に又運命悲劇である。即ち彼は此の作に於て、主  
人公の没落を周圍事情の強迫から引き起させる古典劇  
の原則と、運命を單に自己の胸中から生じさせる近代  
悲劇の原則とを結合せんと試みた。題材の堂々たる力  
が壮大な、魅力ある筋の運びと結合した。次の悲劇か  
らは次第に古典悲劇に近付いたのであつて、即ち「マ  
リア・スチュアート」の中では悲劇的素因が遙か背後  
に押しやられ、カタストローフ、即ち破滅の突發だけ  
が叙述される如き形式を選んだ。「メッシナの花嫁」

では古代の運命觀と古典悲劇の合唱とを取り入れた。

それにも拘はず性格描寫の方法、脚色に於ける想像  
豊かな獨創性、用語に於ける及び難い叙情的、修辭的  
飛躍等の中に、矢張近代的要求があつて、それがシル  
レル劇の古代模倣に賛成しない觀客に對しても、舞臺  
上の成功を保證したのだ。「浪漫的悲劇」と銘打つた  
「オルレアンの少女」は超自然力を人事の進行に關係  
させはしたが、併し同時に衷心からの感激と華麗極ま  
る脚色とによつて奇蹟的な題材をば、多分此の作がシ  
ルレルの精神を最も強く表現してゐると思へる程の暖  
かい人間生活を以て満たした。又此の作中には、最後  
の完成劇「ワイルヘルム・テル」と同じく、醜醉しつゝ  
ある時代への影響を旨指した彼の初期の特長が再び  
現れた。即ち夫等は外國の暴戾に對する力強い豫言的  
な抗議であつた。「テル」の中に彼は最も國粹的な、或  
意味で最も完全な劇を作つた。即ち巧妙な筋の運びが  
構想の飛躍、全く青年らしい新鮮さと潑刺さ、テンポ  
の速さ、或は又獨乙演劇に強い影響を與へた一體とし  
ての集團運動の力強さなどと結合した。於是、彼は氣  
力と藝術との頂點に立つに至り、最後の二作、即ち「藝  
術の奉仕」と偉大な斷篇「デメトリウス」とは彼の詩  
人的個性の全才能を示し、又一聯の雄大な劇の腹案は  
詩人が餘りにも早く世を去つた時に、まだ着手されず  
にあつた。





# 學内報

## 冬期授業日程

大學各學部	十二月十八日	一月十一日	授業開始
大學豫科	十二月七日	一月十一日	授業終了
專門部各部	十二月十八日	一月十一日	學期試驗

## 學生生徒募集

昭和十三年度學生生徒募集要項は左の通りである。

法文學部	試驗科目	試驗科目	試驗期日	出願期間
法文學部	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	四月四日	自二月一日
法律學科	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	四月四日	自二月一日
政治學科	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	四月四日	自二月一日
哲學科	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	四月四日	自二月一日
英文科	論文、英文和譯、人物考査	論文、英文和譯、人物考査	四月四日	自二月一日
經濟學科	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	四月四日	自二月一日
經濟學科	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	論文、語學(英、獨、佛)ノ中	四月四日	自二月一日

商業學科 論文、語學(英、獨、佛)ノ中  
一科目選擇)人物考査

第一豫科 英語、國語、漢文、人物考査 四月八日 自二月一日  
至四月七日

第二豫科 英語、國語、漢文、人物考査 四月二日 自二月一日  
至三月三十一日

專門部一部 四月六、七日 自三月一日  
至四月四日

法律學科 作文、英文和譯、人物考査

經濟學科 作文、英文和譯、人物考査

商業學科 作文、英文和譯、人物考査

專門部二部 四月三日 自三月一日  
至三月三十一日

法律學科 作文、英文和譯、人物考査

經濟學科 作文、英文和譯、人物考査

商業學科 作文、英文和譯、人物考査

國語漢文科 國語、漢文、英文和譯、人物考査

英語科 英文和譯、和文英譯、作文、人物考査

## 南京陷落祝賀式

日支事を構へてより四ヶ月、陸に海に空に皇師の響ふ所敵なく、待望の敵首都南京陷落は十二月十三日全く成り國を擧げて祝賀色に満たされてゐる折柄、本學にては南京陷落祝賀式を去る十二月十四日午前十時三十分より天六學舎校庭に於て、同午後零時三十分より千里山學舎校庭に於て、國旗掲揚、君ヶ代合唱、皇大神宮並に宮城遙拜、戰死病没者慰靈默禱の後學長の式辭あり、陸海軍及文部大臣、寺内、松井、植田各軍司令官、松井第四師團長、長谷川第三艦隊司令長官宛祝電を發し、分列式を舉行、萬歳を三唱して閉式し

## 昭和十二年中の執筆便覽

排列は法政、經濟、文哲の五十音順(敬稱畧)  
單行本はオチツク體を以て表はす  
調査濡れにて未收載の分はご御諒恕  
神戸 正雄

### 地方税制研究

良書普及會

地方營業税の課税標準

經濟論叢一月號

相續税の高き

經濟論叢二月號

賣上税の課税方法

經濟論叢三月號

臨時租税増徴と税制整理

經濟論叢四月號

營業税の課税標準と賣上税の課税方法

經濟論叢八月號

北支事件特別税

經濟論叢九月號

次の税制改革

財政六月號

營業税の課税標準

關大研究論叢七號 經濟論叢

戰時財政論

大毎九月卅日、十月一・二日

戰費調達財源としての公債と増税 關西大學新聞七七號

天皇統治に於ける臣民翼賛の意義

岩崎 卯一

日本國家形態の特種性と普遍性 關大研究論叢七號 法政叢

世界大戰に於ける米國學生に就て 學報一四五・一四七號

戰時に於ける思想と統制 學報一五四號

運命と宿命 關西大學學生新聞六號

社會政策の擡頭に對する政治勢力の態度 關西大學學友新聞廿二號

南進論考 關大評論七號

南進論の目標 大 山 彦 一

社會事業研究五月號

公民講座五月號

た。

尙祝賀提灯行列は南京城内に翩翻と日章旗はためく十一日舉行、學部、専門部、豫科の學生生徒は午後六時天六學舎を出發、大阪市廳―豐國神社―堺筋―大阪府廳―大阪城と蜿蜒長蛇の行列は街に溢るゝ火の海に和し萬歳歡呼の裡に終了した。

### 日本文化講義

文部省示達に依る國民的性格の涵養、日本精神の發揚、日本文化の理解體認を目的として、左記の如く日本文化講義を開講學生生徒に聴講せしめた。

#### 一、國家至上精神

學長 神戸 正雄  
法學博士

十一月十八日午後六時半より二時間

於 天六學舎講堂

同 二十四日午後一時より二時間

於 千里山豫科講堂

#### 一、日本精神の中心觀念

講師 牧 健二  
法學博士

十一月十八日午前八時半より二時間

於 千里山豫科講堂

同 日午後一時半より二時間

於 天六學舎講堂

#### 一、大阪の漢學

講師 石濱純太郎

十一月十五日午前十時半より二時間

於 千里山豫科講堂

同 日午後一時半より二時間

於 天六學舎講堂

### 専門部國語漢文科

#### 學力調査試験

豫て申請中の専門部國語漢文專攻科卒業生に對する中等教員漢文科無試験檢定取扱許可に關し、去る十二月七日午後七時より九時迄文部省教員檢定委員會より來學、最高學年の學力調査試験があつた。

### 教 練 查 閲

昭和十二年度學部及豫科學生生徒の教練查閲は十二月一日千里山學舎校庭に於て第四師團司令部付河村少將の查閲があつた。

尙専門部第一部は來る一月二十七日城東練兵場に於て河村少將の查閲ある筈である。

### 防共協定成立祝賀大會

全大阪大學専門學校主催、日獨伊防共協定成立祝賀大會は十一月二十九日午後三時から大阪中央公會堂に於て開催された。詳細は別項の通りである。

### 高專聯合演習參加

十一月二十六、七日の兩日攝津伊丹平野に於て行はれた第四師團管下高等専門學校聯合演習に専門部第一部及大學豫科生徒參加した。

社會事業の理念と現實

滿洲國新政治組織

滿洲の宗教共同社會

國家承認の所謂「相對性」に關する吟味

安全保障より中立へ

不戰條約の正體と自衛權の問題

婚約法と内縁法

夫の貞操

所謂類似宗教について

警察犯の即決處分について

集會結社の警察制限

地方制度改革の基調

信教の自由と類似宗教

行政裁判所判例批評

私立學校閉鎖處分と出訴權

道路法に依り準用せられる行政執行法の戒告

と出訴權

鐵道大臣の公傷病認定と恩給の査定

調書の違法と收用裁決

署名なき差押調書

廢車所有と自轉車稅

滯納者の妻の專用物件と所有權

滯納者の同居家族の所有物件と差押の禁止

收用殘地上の物件移轉の要否

收用殘地の價格減少の有無

社會事業研究九月號

關大研究論集七號法政篇

社會事業研究十一月、十二月號

川上 敬 逸

學報一四六號

關西大學新聞七一號

關西大學學生新聞五號

木村 健 助

關大研究論集七號法政篇

學報一五〇號

中 谷 敬 壽

公法雜誌三卷六號

公法雜誌三卷七號

關大研究論集七號法政篇

千里山法律學舍會誌二號

關西大學新聞七二號

公法雜誌三卷一號

公法雜誌三卷二號

公法雜誌三卷三號

公法雜誌三卷六號

公法雜誌三卷八號

法と經濟一卷八號

公法雜誌三卷十號

公法雜誌三卷十一號

公法雜誌三卷十二號

公法雜誌三卷十二號

公法雜誌三卷十二號

公法雜誌三卷十二號

がくほう抄

- ▽關西大學學會法律政治研究會 學會第一(法律・政治)部會では、今回研究論集法律政治篇の發刊を期とし、今後定期に研究會を開催することに決定、その第一回を去る十二月十一日(土)午後三時より千里山學舍クラブハウスに於て舉行し、下記研究發表があつた。(定期備船契約について)安藤教授(戰時禁制品に關するムアリの見解について)川上教授出席者—安藤、岩崎、大山、木村、中谷、西村、野村、本莊、吉田、和田、川上の各所屬教授
- ▽木村 清氏 本學協議員評議員、阪和電鐵社長たりし氏は十月二十七日急逝せられた。
- ▽増山理事令弟 増山理事令弟増山俊三氏は大場部隊にて北支に奮戰中十一月八日太原の總攻撃に名譽の戦死を遂げられた。
- ▽瀧澤教授嚴父 瀧澤教授嚴父は東京に於て病氣療養中、去る十二月九日逝去せられた。
- ▽森川教授令息(第三子)は去る十一月十二日夭折せられた。
- ▽和仁貞吉氏 本學元講師、元大審院長、法學博士たりし氏は、十二月三日宿痾腎臟病にて逝去せられた
- ▽服部英次郎氏(講師)京都市左京區北白川別當町八に轉居
- ▽大橋光雄氏(講師)京都市左京區岡崎法勝寺町六〇(電一〇六)に轉居
- ▽國歲胤臣氏(講師)三島郡茨木町本丸一〇九〇ノ一〇に轉居
- ▽江馬 務氏(講師)京都市左京區桂乾町七二に轉居

▽柚木 馨氏(講師)神戸市灘區五毛通二丁目一三(電御影三四七七)に轉居

▽鎌田嘉之氏(學生選)南區高津町四番丁六四(電衣四四二七)に轉居

應召軍務公用者 (其の四)

本誌前號所載以後支那事變軍務公用者として應召出征の本學校友、在學生諸氏の中判明せるは左記の通りである。(十二月十五日)

卒業生

- 原口 優 (昭七 專商) 小西 文夫 (昭八 專二商)
  - 濱田 重義 (昭九 大商) 和知部隊所屬、上海にて名譽の戦死 (本籍地) 德島縣勝浦郡小松原町神代橋筋
  - 草信 安雄 (昭九 大法)
  - 辻 雄二 (昭一〇 專二商) 金澤輜重兵第九大隊第一中隊輜重兵伍長(富士井部隊大行李班長)として十一月十四日、青浦より崑山に向け敵を追撃中、敵食糧新車三台を分捕り、當時進軍急にて食糧難の皇軍に大なる寄與をせり。
  - 井上 次郎 (昭一一 大法)
- 在學生
- 辻 正吾 (學部 法一) 櫻谷 隆俊 (第二豫科二)
  - 小笠原 巖 (專一 法一) 逢坂 敬一 (專二 法二)
  - 西谷 隆夫 (專二 法一) 朝倉 一雄 (專二 法一)
  - 久本 敏雄 (專二 法二) 西脇 實 (專二 法一)
  - 大串 利之 (專二 商一) 山本 正信 (專二 英三)

西村 信雄

明治初期の身元保證  
保證債務の相續性  
保證契約の特別解約權  
明治初期の身元引受證書の實例に就て

徒弟契約

判例批評一件  
雜誌論文月評

商行為法 原田講師と共著

商法第十九條を論ず  
瑞西における最近の商事立法  
商業登記の効力に就て

衝撃に續く肉體的損害の賠償に付いて

既得權の國際的尊重の原則に付て

天皇主權

兵役の義務に就て  
我國憲法政治の二大基本主義  
國家なる名稱の成語に就て(支那及西洋諸國に於けるもの)

國家なる名稱の成語に就て(日本に於けるもの)

和田 豊 二



# 校 友

## 校友會會則改正並に校友會館 建設調査委員會

校友會會則改正並に校友會館建設調査の第二回委員會を十二月二日午後四時より天六學會會議室に於て開催、會則改正案を審議し、校友會館建設については資金の關係もあり、早急に實現することは不可能なるを以て、會員組織により校友俱樂部を設立、これが實現方申し合せて散會す。

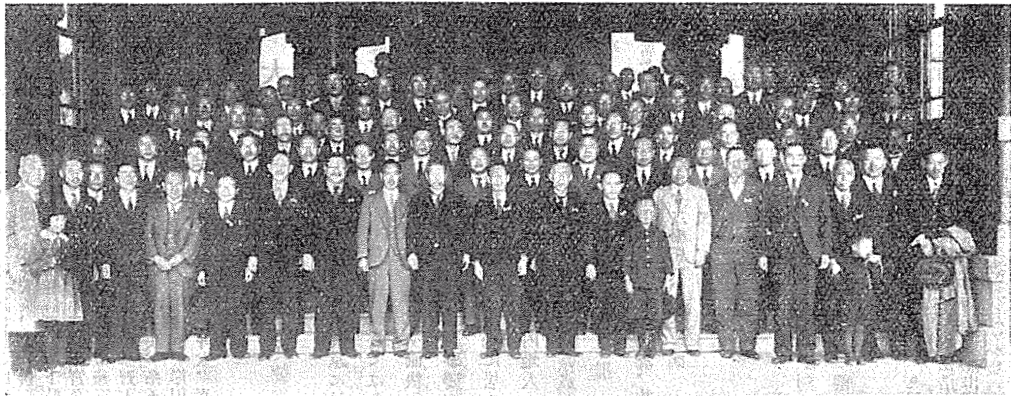
出席者 神戸會長、玉木理事、糸島實太郎、岩崎卯一、大月伸、河村宜介、内藤正剛、樋口晋四郎、桂忠雄、神屋敷民藏の諸氏。

## 大阪支部

國威宣揚武運長久祈願

校友會大阪支部にては例年春秋の二期懇親會を催してゐたが、本年は時局に鑑み懇親會を取止め、春日神社參拜、國威宣揚皇軍の武運長久の祈願を爲す事となり十一月十四日(日)午前十一時玉砂利敷つめられた春日神社の神前に額づき祝詞奏上玉串奉獻して赤誠を捧げ神樂を奏上して神慮を慰め奉つた。それより神鹿を撫しつゝ奈良の秋を賞で、奈良ホテルに於て開會、喜多村理事より母校の近況の報告あり、幹事の任期満了により改選し、晝餐を共にして盛會裡に午後一時半閉宴散會した。

當日改選の新幹事左の通り



飯田 清毅 原田鹿太郎 鳥羽源四郎 大崎萬太郎 大月 伸 河村 宜介 丹 二良 谷 岡 登 土橋 成多 中谷 敬壽 植田 完治 山田卯三郎 山根 謙藏 松本芳太郎 森内 棧吉 氏 名

法律解釋の現段階  
社會科學者と法學者との協力  
文藝と法律との協調面  
神斷と法

關大研究論集七號法政篇  
關西大學新聞七六號  
關大學友新聞廿、廿一號  
關西大學學生新聞七號  
赤羽 豐治 郎

コンラアトの流通經濟の機構  
ベルンハルデイの經濟論  
歴史派經濟學の精神的基礎  
經濟に於ける數量  
出版の自由  
漱石とウオード  
經濟的自足と大阪圖經濟  
カーライルとゲンツ

關大研究論集七號經濟篇  
學報一四六號  
學報一五一號  
關西大學新聞七五號  
關西大學友新聞二二號  
關西大學學友新聞二二號  
關西大學新聞八七號  
神戶商大新聞七一號  
早稻田大學新聞七一號

ナチス經濟再建の組織  
熱練工は速成し得るか  
中小工業と工業組合の將來  
工業組合制度果して中小工業者を救済し得るか

關大研究論集七號經濟篇  
關西大學學生新聞四號  
産業と教育一月號  
日本織物新聞元日號

工業組合運動の回顧と展望  
ナチス・ドイツの價格取締法  
産業統制を通じて觀たわが國と滿洲國  
わが國産業統制の性格  
工業組合運動の躍進  
戰時經濟と工業組合  
戰時體制下の我が國産業統制

日刊工業新聞三月廿七日より連載  
長商法雜誌六月號  
躍進工業七月號  
學報セメント七月號  
法政大學新聞七六號  
綿工聯二八號  
學報セメント十一月號

商業經營經濟及賣買活動に就ての若干の考察

加藤 金次郎

關大研究論集七號法政篇  
關西大學新聞七六號  
關大學友新聞廿、廿一號  
關西大學學生新聞七號  
赤羽 豐治 郎  
關大研究論集七號經濟篇  
學報一四六號  
學報一五一號  
關西大學新聞七五號  
關西大學友新聞二二號  
關西大學學友新聞二二號  
關西大學新聞八七號  
神戶商大新聞七一號  
早稻田大學新聞七一號  
關大研究論集七號經濟篇  
關西大學學生新聞四號  
産業と教育一月號  
日本織物新聞元日號  
日刊工業新聞三月廿七日より連載  
長商法雜誌六月號  
躍進工業七月號  
學報セメント七月號  
法政大學新聞七六號  
綿工聯二八號  
學報セメント十一月號

神田榮吉、海北和村、神宅賀壽恵、桂 忠雄、河村宜介、加藤金次郎、神尾敷民藏、柏元孝治、吉村種藏、吉田晉松、吉木留吉、吉田一枝、垂水善太郎、玉木三郎、武田義之助、高橋長左衛門、田中可長、田所留三、竹西宗助、丹 二頁、谷岡 登、田邊清市、田中健三、谷口宗一、高沖次郎、内藤正剛、中村敬雄、中村公男、中村部次郎、中山幸市、名田京一、永井量一、中村岩見、中川庸太郎、中村良之助、中尾房太郎、中田秀太郎、村松岩吉、村尾靜明、浦田 豊、梅原貞治郎、植田定治、歌麿千秋、野崎勇二郎、山口政治郎、野村次夫、黒田壯次郎、巖野 宣八木孝三、山田安太郎、安井章吾、山崎敬義、松本櫻四郎、山口辰雄、安川安太郎、安井章吾、山崎敬義、松本櫻四郎、松本茂三郎、松本芳太郎、前田常好、松廣末松、松原健一、藤澤孝次郎、袋井榮太郎、福田次彦、藤原荒治、小泉幸治、兒玉善吉、後藤田徳太郎、近藤友房、藤美元次郎、赤羽豊治郎、佐伯三郎、喜多村桂一郎、瀧池金次郎、木村順次郎、岸本芳夫、三浦三郎、水谷揆一、三枝樹正道、道端常治郎、三島律夫、志野覺治郎、新町徳之、神保敏夫、正田麻治、清水榮松、引野秀泰、森川太郎、岡 豊馬 (以上一一五名)

## 福岡支部

秋季例会を十一月廿八日志賀島に於て開くべきの處降雨の爲め俄に豫定を變更し、同日正午新三浦に於て開く、席定るや支部長池田重吉氏の挨拶を述べ直に名物水たきをパク付く、蓋し場所たるや遠く海を望み新築の室に於て博多第一たり、時節柄藝妓のお酌を却け當家に最も古き仲居お花さんの如才なき幹旋は一同を喜ばし、孰れも燒芋時代の書生に返り、老少階級の區別あらばこそ高談曝笑時局を論議するもあり、時の移るを知らず、和氣霽々裡に散會したるは五時頃なりき。

因に支部會員左の如し (次第不順)  
池田重吉、古賀 肇、星野俊一、岡部武夫、馬場圓吉、

佐治謙蔵、櫻井 匡、大馬猛男、諏訪慶之助、高山明一、井上以知爲、不破美太郎、辻井安英、森 耕二郎、篠方三郎、阿武紀明、宮内吉美、渡邊信男、森下政治、津原元次郎、濱崎多松、吉岡直之、中井勝、本宮久吉、熊野 猛、柏田正文、内田武巳、安西恒男、丸山彌三、本庄七郎、宮崎久樹、安藤幸藏、久木山四郎、至野七郎、鶴井辰夫、磯田英夫、根津菊治郎、木内正美、糸重 榮、内田昌生、石井貞敏、笠原宗將、谷口清水、岸田哲雄、磯木 必、松井信一、崎谷三郎、宮永逸身太、森尾善一、

## 大連支部

十月二十日午後六時より海務協會食堂に於て第十九回秀露會を開催す、いつも見る顔振れではあるが校友として心置きなく語り得ることは實に愉快なものだ、飲み且つ食ひながら話は必然的に支那事變が中心となつて行くが、事變地帯と陸續きの當地に居を卜すお互には觀方に於て、又感じ方に於ては内地人よりは切實に深酷な空氣が窺はれる、話は盡きないが九時半學歌を高唱し散會。

(出席者) 高濱直一、室山宇太郎、秀島金治、札野茂次、  
高部 章、光井章雄、三橋正實、平井三朗

## 五 綠 會

十月十八日、道頓堀パザートに於て夕刻より募集久方振りに元氣に一夕の快談をなし、互の健康と向上を祈り友好を温めて散會した。

(出席者) 今川丈夫、稻村金藏、川島正一、丸谷 實、御堂河内四市、杉分清治郎、鈴木武夫、岩田浩太郎、西村剛、渡邊幸三郎、岡師幸幸、酒井仁郎、北山秀三、森井 龜吉

關大研究論集七號經商篇 賀 屋 俊 雄

F・O・B 賣買に關する若干の考察 關西大學新聞七三號 海上賣買に於ける危險負擔に就いて 法政大學新聞六月號

Ex Ship 系賣買契約に於ける "Cancellation Clause" に就いて 商業英語(B・E・C)十、十一月號

輕市に就きて 關大研究論集七號經商篇 中川庸太郎

世界經濟の段階的及成層的構造 關大研究論集七號經商篇 世界資源の再分割問題 關西大學新聞七五號 景氣變動進行過程の形態に就きて 關大商業研究三號 政治的變動と景氣變動 關西大學學友新聞二二號 中村良之助

二五九七年を主題とする交響詩「地」と「血」 學報一四七號 人口問題 學生新聞六、七號、學友新聞二二號 西村勝太郎

銀行簿記 大同書院 會計學基礎原理 大同書院

組合事業に於ける會計學上の若干問題 會計九月號 組合事業の中途出資金と其會計上の取扱 會計十一月號

組合事業の資本調達方法と其會計整理方法 商工經營實務研究九月號 會計學上に於ける組合事業の利益金取扱並びに 商工經營實務研究十月號

組合解散の整理方法 商工經營實務研究十月號 會計學上に於ける自己資本の問題 商工經營實務研究十一月號

商工經營實務研究十一月號





福居 順一君 (昭九專二法) 株式會社森タオル店 (東京市日本橋區橋町八ノ二)

濫川 俊郎君 (昭一〇大法) 京都市左京區役所を辭しラサ工業會社に勤務

西垣桂太郎君 (昭一〇大法) 日本タイプライター大連支店 (大連市山縣通) 住所大連市尾上町一六五

渡邊 聰君 (昭一〇專一商) 神戸市教育部庶務課、住所神戸市林田區寺池町一丁目六、岡井政生方

加藤 常雄君 (昭一〇專二商) 宮權會計事務所 (靜岡縣富士郡鷹岡町)

五島 守君 (昭二專一商) 滿洲國瀋陽警察廳より奉天省公署官房文書科に轉勤

須賀 春次君 (昭一專二商) 野田醬油會社關西工場 (兵庫縣加古郡荒井村)

稻井 萬吉君 (昭二大法) 尼崎鋼管會社

崎谷 三郎君 (昭二專一法) 滿洲國龍江省齊々哈爾市 豐恒胡同一號滿洲國通信社齊々哈爾支局

移 動

田中 依男君 (推) 東區伏見町四丁目三 (電北濱八五)

野村 稻一君 (推) 南區塩町通二丁目三 (電船場四五三二)

荻野 嘉平君 (大二專法) 北區都島本通一ノ五三

杉竹清治郎君 (昭五 大法) 西成區玉出新町通二ノ四一

今川 丈夫君 (昭五 大法) 住吉區鷹合町一六六ノ一 (電天王寺五二二一)

岡本 通君 (昭五 大法) 堺市車之町東一丁二七ノ一

鈴木 武夫君 (昭五 大法) 辨理士事務所 (此花區福島 西通交叉點前、福ビル内)

山田 巖君 (昭五 大) 兵庫縣武庫郡大庄村西南川端六一八

吉田治郎吉君 (昭九 專法) 廣島市牛田町一、二、三、四

前田 勸治君 (昭六 專法) 住吉區駒川町五丁目三

藤井梅三郎君 (昭六 專法) 東區谷町三ノ一

柳田 榮次君 (昭六 專商) 住吉區鷹合町一六九

吉ヶ江彌伸君 (昭六 專英) 旭區赤川町一〇八六

住江 敏夫君 (昭八 大法) 神戸市林田區寺池町二ノ一

平 島廣君 (昭八專一商) 〇四

北川 照敏君 (昭八專二法) 神戸市葦合區大日通二丁目一四三、松村方

荻阪 操君 (昭八專二商) 岸和田市上町八九四ノ一

眞子 武晴君 (昭八 專國) 住吉區住吉町一三二五、原島方

佐野 榮二君 (昭九專一法) 三島郡吹田町二六〇一、田中方

島田 次男君 (昭九專一法) 三島郡吹田町前野町五五九

多田 米藏君 (昭九專二商) 〇ノ二

朝垣 英夫君 (昭九專一商) 住吉區播磨町東一ノ三二

池田佐太郎君 (昭九專二法) 港區五條通二ノ二七

佐藤 木大君 (昭九專二法) 北區會根崎上一ノ一九、平野方

ワインガルトナー夫妻の指揮を見る 關西大學新聞七〇號

增加率論 關西大學學生新聞三號

琉球久土記 關大研究論集七號文哲篇 學卷一五二・一五三號

陵中の碑及陵側の碑 陵 草 六 號

遣珠拾玉集 新町 德 之

身邊雜事抄 關西大學學友新聞二一號

人形淨瑠璃 田 邊 清 市

Expanded forms に於ける主觀性 關西大學新聞七六號

Norman Compton の英語彙に及ぼせる影響 八 鳥 治 一

孟子の檢討 關大研究論集七號文哲篇 學報一四六號

Alfons Lexley の背後 關大研究論集七號文哲篇 三枝樹正道

教育理想としての菩薩道 關大研究論集七號文哲篇 智恵院社會課

幼兒の宗教教育 (三月) 吾が宗教教育序 兒童教化七月號

本質の把握 兒童教化九月號

社會の質相 兒童教化十月號

理想の生活 兒童教化十一月號

教育の眞相 兒童教化十二月號

- 河野 靜彦君 (昭九專二經) 神戸市葦合區神若通四ノ七  
 一、米原方
- 塚本 重斌君 (昭九專二商) 港區天保町九六、高見方  
 高 昌 菱君 (昭一〇大法) 朝鮮光州府山手町三八七  
 佐藤 忠雄君 (昭一〇專二法) 三島郡吹田町三釜川口方  
 呂 圭 萬君 (昭一〇專二法) 東區内久寶寺町一ノ三〇  
 田中 敏衛君 (昭一〇專二商) 東淀川區國次町八九、日  
 之出アバト
- 田中 正豐君 (昭一〇專二商) 此花區中江町一八二  
 原野 友一君 (昭一〇專二商) 旭區生江町三三、上南方  
 渡邊 忠男君 (昭一〇專二法) 西淀川區野里町三〇三、  
 有賀方
- 山尾 大吉君 (昭一〇專二法) 西成區津守町七六八  
 田中 順吉君 (昭一〇專二法) 旭區今福町二三〇高島方  
 淺蔭 美行君 (昭一〇專二法) 北區茶屋町五二、久田方  
 井筒 正君 (昭一〇專二法) 此花區春日出町北港住宅  
 一二七、與村方
- 中野 文吉君 (昭一〇專二法) 北區都島中通二丁目七、  
 野中方
- 築山 四郎君 (昭一〇專二法) 東淀川區國次町三六九、  
 上野方
- 森下 磐君 (昭一〇專二法) 天王寺區眞法院町四〇、  
 雨宮方
- 池北 實君 (昭一〇專二法) 天王寺區勝山通一ノ一七  
 二、野田方
- 藤本 明君 (昭一〇專二法) 西淀川區野里町七六八、  
 赤松方
- 與村 房一君 (昭一〇專二法) 東成區北生野町二ノ四七  
 井筒方
- 川島 精治君 (昭一〇專二商) 北區眞砂町三、竹西方  
 榎田 武雄君 (昭一〇專二法) 住吉區昭和町中四ノ二三  
 飯間 文爾君 (昭一〇專二法) 東淀川區國次町二七五、  
 温友寮内
- 英 正君 (昭一〇專二法) 東區淡路町三ノ六、中西方  
 北村勝三郎君 (昭一〇專二經) 南區高津町四番丁四一  
 福本 繁君 (昭一〇專二商) 港區石田布屋町三ノ一〇  
 九、中西方
- 平井 文平君 (昭一〇專二商) 三島郡吹田町三二一七ノ  
 二、小出方
- 齋藤 司君 (昭一〇專二商) 三島郡吹田町驛前内田方  
 谷口 義正君 (昭一〇專二商) 東淀川區三國本町三一、  
 松本方
- 大館明太郎君 (昭一〇專二商) 北區都島南通一ノ八四  
 甲斐 龜夫君 (昭一〇專二商) 東淀川區下新庄一〇二三  
 小林方
- 藤瀬 助次君 (昭一〇專二商) 堺市出島町三五八岡村方  
 岡田 清三君 (昭一〇專二法) 西成區北吉田町二五  
 尾崎 幸一君 (昭一〇專二法) 西區粉濱東之町五ノ一六  
 安村方
- 金 長 松君 (昭一〇專二法) 北區浪花町三〇  
 先山 磨保君 (昭一〇專二法) 北區老松町三ノ五平尾方  
 島邊 一松君 (昭一〇專二法) 東淀川區國次町三七、織  
 田方
- 四井 義規君 (昭一〇專二法) 京都市上京區小山堀池町  
 三九
- 藤川 良一君 (昭一〇專二法) 豊能郡石橋一〇三壺井方  
 西野 義輝君 (昭一〇專二法) 東淀川區小松町五四一  
 高見 行雄君 (昭一〇專二法) 堺市三國ヶ丘町六四ノ二  
 酒井 政之君 (昭一〇專二法) 兵庫縣武庫郡精道村打出

「人」の教育 致園研究五月號

釋尊とその弟子 關西大學新聞七〇號

Noel Coward の戯曲 山田松太郎 關大研究論集七號文哲篇

由 斯 會

應募映畫脚本審查發表

母校關西大學を紹介する映畫を製作せんが爲、これが脚本を在學生諸君に募りたる處、締切が短時日なりしたためか應募九篇、入選佳作と認めるものは、遺憾乍らなかつたので左の通り決定した。

選外佳作 學部法三 澤田康治君

讀後感として一様に感じる事は主題がよく理解されてゐないと云ふ事である。關西大學を紹介すると云ふ命題である以上、もつと題に相應しいシナリオナリストーリーでなければならぬ。中には題から全然離れてしまつてゐるものすらあつた。映畫脚本は斯うしたものの、中でも最も特異性の多いものである。それだけに實際を知らない學生諸君にとつて難しいものであつたと思ふ。がそれにしてももつと映畫のもつ特殊性を研究し、よく呑込んで製作する必要があつたと思ふ。

選外佳作の澤田君のものも全體を通じて冗長に流れ全畫面を生硬な退屈なものにしてゐる、大學風景の點景であつても、大學紹介と云ふテーマからはやゝ遠のいてゐる。愛校はがきの展開をもつて畫面に動きを見せ様とした點は他の數篇に比して創意が認められる。尙應募の各位には夫れ々薄謝を呈した。

原田八ノ一、山田方

栗本五十吉君 (昭二專二法) 天王寺區生玉町齡延寺内

橘高 護君 (昭二專二法) 豐能郡池田町建石町

北口 敏雄君 (昭二專二法) 神戸市兵庫區上澤通二ノ

三、石橋方

奥谷 平吉君 (昭二專二法) 住吉區桑津町三六五、舊

桑津市場前

今倉 恰君 (昭二專二法) 旭區南島町八八四ノ一八

平地 正良君 (昭二專二法) 住吉區天神森二ノ六五、

花谷方

李 相 燦君 (昭二專二法) 旭區生江町二一五〇

松田 政夫君 (昭二專二法) 北區堂島中一ノ一平井方

橋本 精二君 (昭二專二法) 東區黒門町官舎

笹井 英夫君 (昭二專二法) 北區都島本通五ノ一高木方

高山 楨大君 (昭二專二法) 布施市菱屋東五五二

内村 徳藏君 (昭二專二法) 三島郡吹田町三二一七ノ

二、小出方

堀田 二郎君 (昭二專二法) 泉南郡山直町田治米、野

上方

高木 善男君 (昭二專二法) 兵庫縣武庫郡瓦木村高木

東大餉三四二

大江 宇一君 (昭二專二法) 堺市宿院町東二丁二

張 李 興君 (昭二專二法) 港區市場通一丁目神田方

橋本 種治君 (昭二專二法) 東成區片江町四九五

中島 英雄君 (昭二專二法) 中河内郡龍華町楠松、林方

林 隆之君 (昭二專二法) 三島郡吹田町泉町八ヶ尻

三三〇八

出道 彦七君 (昭二專二法) 西淀川區大和田町四三七

菊池 關君 (昭二專二法) 北區樋上町三八

河内島 亨君 (昭二專二法) 北區堂島濱通一ノ八七、

高橋方

池本 進君 (昭二專二法) 住吉區天王寺町三〇〇八

才津 克己君 (昭二專二法) 港區東田中町三ノ九一

澤原 清君 (昭二專二法) 旭區生江町四六四村山方

田崎 正夫君 (昭二專二法) 東淀川區元今里南通三

(舊名安藤)

谷 光倫君 (昭二專二法) 港區六條通二築港高野山

丸田 正永君 (昭二專二法) 住吉區住吉町七七七木村方

石黒 興市君 (昭二專二法) 住吉區山坂町一ノ六有井方

岡田 正治君 (昭二專二法) 臺北市老松町二ノ一三、

長田末松方

木下 昌夫君 (昭二專二法) 兵庫縣武庫郡御影町城ノ

前一五一五、藥師方

川越 茂樹君 (昭二專二法) 神戸市湊東區楠町一ノ三

山下 吉秋君 (昭二專二法) 旭區野江町三ノ七二

山下 正美君 (昭二專二法) 南區瓦屋町四番丁一四、

今井方

緩部 幸夫君 (昭二專二法) 豐能郡豐津村垂水九七三

村井方

尾崎 正三君 (昭二專二法) 西成區千本通六、秋山方

米田 兼光君 (昭二專二法) 西宮市荒我町三七、川瀬

利巳方

改姓名

(舊) (新)

東・茂 森・茂

大・前 勘 治 前・田 勘 治

上・村 永 康 宇・喜 多 永 康

中・田 秀 大 郎 木・田 秀 大 郎

淺・井 義 則 河・村 義 則

谷 玄 雄 谷 光 倫

俳句會

(専門部一部)

關秀歌人しぐる、丘を越えて住む 白文地

關秀歌人黒猫いだき市場まで 風三樓

關秀歌人今宵は青き灯を點けぬ 夜詩一

出征の机上きのふの如くあり 比呂志

月細く人みな兵となりて征けり 桃園

軍需工場夜天をこがし川涸れたり 木石

秋暑し新聞の活字死者を埋め 義人

秋暑し一文字せり西へ飛ぶ 五黄

乙女香を焚けり端然と性を思ふ 吐木

模索するこゝろ深夜の壁に會ふ 螢火子

模索するこゝろに玻璃が重かりき

模索するこゝろひそかにふねを造る

蠅が居る身を切る苦痛失せし時

痛みつゝ全裸の身體動かせず

送らるゝ寫真に入る我となりぬ

航空燈めぐり又銃のかけに寝る

寒い風歩哨の足に吹きにぶる

まどろめば又銃と流星が寒いのみ

夜はふかく友の寢息が戸を叩く

野に迷ひ手折りし菊の雨にしむ

紅貝と砂にたわむる濱の娘等

鐵砲こわれこの兒この頃よく食べる

ませた口妻は命を知ると言ふ

ペン持てば曉の霞はぢけたり

豫算がね又減るんだよと爪をかみ

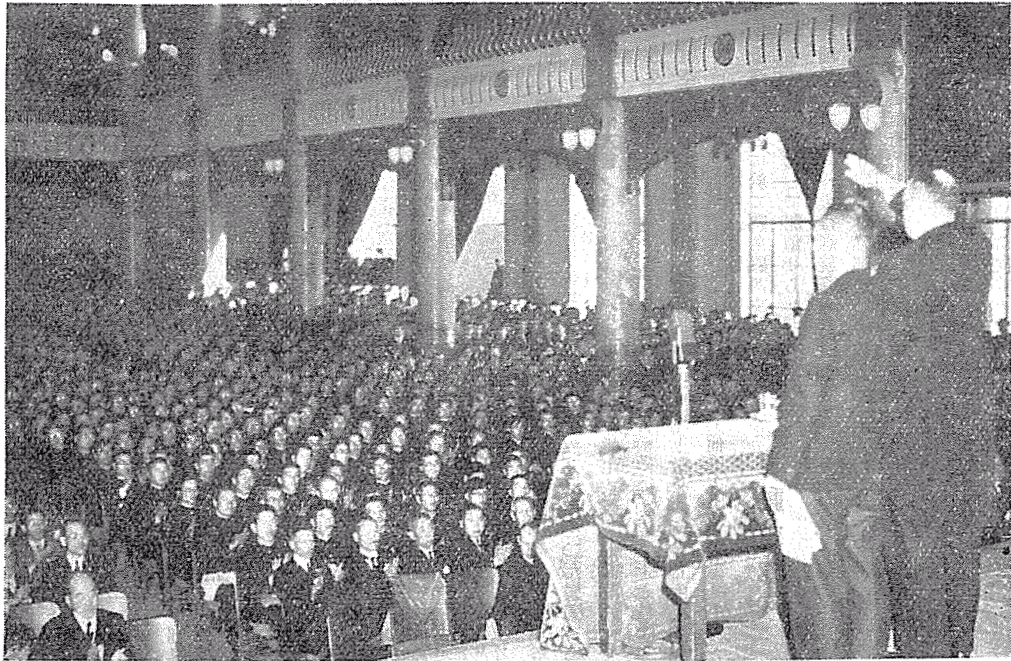
お母さん冬オーバーの金送れ

婦人科院旗垂れ院主出征す

丘は焼け飛行将校と野に會ひぬ

出征の貨車に雲照り兵黒き





全大阪大學高專學生防共協定成立祝賀大會

全大阪大學高專學生  
防共協定成立祝賀大會

十一月二十九日午後三時より大阪中央公會堂に於て、大阪府、市、商工會議所後援のもとに開催、全大阪大學高專十八校の男女學生並に職員約五千名參列、來賓として獨總領事、伊領事代理ほか在阪獨伊兩國人出席、三國國歌吹奏の後、式祝辭の朗讀あり、三國の萬歳を齊唱（伊大利の部、本學神戸學長の發聲）閉會、次で陸軍參謀本部員林勇藏少佐の「三國防共協定の意義」なる講演があつた。

式 辭

共産「インターナショナル」が絶へず東西兩洋に於ける世界文明を危険に陥れ平和秩序を攪亂し且其の破壊に導かんとするは甚だ遺憾とする所也。其の危険を滅殺し其の思想を除去せんには其の精神と目的とを同じうする國家の間に於て密接なる協力を爲すは防禦の効果を尤大ならしむる所以なり。

我が國體の精神は此の共産主義と絶體に相容れざる處にして國內の安寧及び社會の福祉を危殆ならしめ世界の平和を脅かさんとす此の種思想と相抗する事既に年あり。而して友邦獨逸國も亦不撓の精神を以て常に此の勢力に抗して平和と安寧とに努め來れるは全く其の志を同じうする所なるを以て昭和十一年十一月二十五日兩國の間に共産主義的破壊に對す

る防禦の協定を締結し緊密なる協力によりて目的達成に努め既に其の効果の甚大なるものあるは齊しく世の認むる所となり爾來茲に滿一ヶ年に及べり。

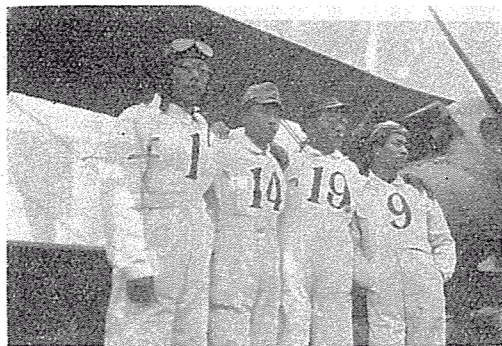
伊大利國又「フアンスト」政治の創始以來常に此の危険と闘ひ共産主義を其の領土より驅逐し只管其の防禦に努めつゝあるは全く目的を同じうするものなるより去る十一月六日獨の協定に參加を見るに到れり。

茲に於て東西三國の間に新なる防共の協定成立し議定書に對する各國の調印を了せり。蓋し東西の三強國が協力して其の精神に於て其の實力に於て共産「インターナショナル」の防禦に當らんとするは戦はずして目的を達成する所以にして互に國內の安寧と社會の福祉とを進め世界全般の平和に寄與する所最大なるものあるは洵に同慶に堪へざる所なり。こゝに我等在阪の大學並に高等・専門學校の職員學生生徒は本日を下して皆一堂に會同し獨逸・伊大利兩國代表各位を招聘し幾多貴紳の御來臨を辱うして三國防共協定成立祝賀大會を開催し此の世界的最大にして意義深き協定の成立を祝福する所也。聊か所懐を述べて式辭とす

昭和十二年十一月二十九日

全大阪大學・高等・専門學校  
防共協定成立祝賀大會代表

大阪帝國大學總長



## 航空部

### 學生航空選手権大會

日本學生航空聯盟の年中行事第四回日本學生航空選手権大會は、東久邇航空本部長官殿下の台臨を仰ぎ十一月二十一日霜白き盾津飛行場に於て關東關西支部より六拾名の學生出場して開催せられた。競技種目は水平直線飛行螺旋降下制限地着陸、高度目測S字飛行、制限地着陸特殊飛行、通信筒吊上其他グライダー滑空等の競技を行った。

本學よりの参加者は學部吉田正治君同岸上正次君専門部鶴田則夫君同井上勇君

## 關大スポーツ

の四君が出場日頃練習の優秀なる技倆を示した。本學出場選手の成績次の通り。

水平直線飛行螺旋降下制限着陸  
 三等 吉田正治 七七、二〇  
 高度目測S字飛行  
 四等 吉田正治 七五、三七

鶴田則夫君井上勇君はオープン競技を示して賞讃を博した。

東西對抗競技たる通信筒吊上は關西の選手見事な吊上を行ひ優勝した。

### 教練査閲参加

本年度千里山學舎に於ける教練査閲に於て本學航空部學部會員角谷、岸上兩君はニニポール二九型機を操縦し之に参加、地上攻撃其他高等飛行を行ひ、豫科校舎前の運動場の上を校舎屋上よりも低き地上敷米の所を自由に飛翔し教練参加者其他の人人を感歎せしめた。

## 自動車部

### 關西學生競技會 (第四回聯盟競技會)

十一月二十八日、於部島自動車學校

①同志社大學 28點  
 ②關西大學 22點  
 ③大阪帝國大學 20點  
 ④大阪齒科醫專 16點

## 籠球部

⑤關西學院大學 14點  
 ⑥立命館大學 11點  
 ⑦大阪商科大學 4點  
 個人本學入賞者  
 コース ① 早助  
 バック ③ 中山  
 奮力 ① 平尾  
 ⑤ 粉川

### 關西學生秋季リーグ戦

十一月六日、於甲子園室内コート

#### 第一部

十一月七日  
 關西大學 31 (18 13) 23  
 關西學院 10 13

十一月十三日、於甲子園  
 關西大學 29 (22 7) 22  
 關西學院 9 13

十一月十四日  
 關西大學 37 (13 24) 29  
 關西學院 16 13

十一月二十一日、於甲子園  
 關西大學 30 (16 14) 25  
 關西學院 14 11

十一月二十三日  
 關西大學 49 (19 30) 22  
 關西學院 14 8

十一月二十三日  
 關西大學 36 (21 15) 19  
 浪速高校 15 4

### 大阪YMCA開館記念競技會

關大OB 57 — 49 G B 俱樂部  
 關大新人 54 — 35 鐘紡淀川工場

## ホッケー部

十一月十三日  
 關西大學 4 (2 2) 0  
 神戸外人 2 0 0

十一月十四日、於南甲子園

關西大學 7 (4 3) 0 全關西  
 4 0 0

東都遠征 自十一月廿日—廿四日

第八回法政定期戦、於新田球場

關西大學 8 (6 2) 1 法政大學  
 關西大學 2 (1 1) 0 東京農大

東京商大 3 (2 1) 2 關西大學  
 關西大學 4 (2 2) 2 慶應大學

遠征メンバー  
 兄 本原谷野藤 村數原 弟  
 村福大丹近 本宇福 野田 洲  
 L.W.I.F.I.W 1.C.H.H  
 L.C.R.R. 1.C.R.H  
 L.R.B G.K

## 庭球部

### 全日本選手権大會

十一月十日、於甲子園國際俱樂部コート



シングルス第一次

塚田(明大) 6-4 5-7 廣瀬(關大) 6-3 5-7

倉光(關大) 6-4 7-5 谷口(法政) 8-6

ダブルス第一次

倉光(關大) 6-2 6-1 岡田(慶應) 6-2 清田(慶應)

シングルス第二次

安部(稻門) 4-6 6-1 奥村(關大) 8-6 6-1 奥村(關大)

シングルス第二次

倉光(關大) 6-3 6-1 中野田(神南大) 6-3 6-1

ダブルス第二次

倉光(關大) 4-6 6-4 吉岡(神戸俱) 6-3 2-6 枕(神戸俱)

シングルス第三次

倉光(關大) 1-6 4-6 鍵富(慶應) 6-2 7-5 鍵富(慶應)

ダブルス准々決勝

安部(稻門) 6-4 4-6 倉光(關大) 6-3 6-2 奥村(關大)

シングルス准々決勝

倉光(關大) 8-1 6-2 村上(慶應) 6-1 6-2 村上(慶應)

シングルス准決勝

十一月十六日、於甲子園コート

クラム(ドイツ) 6-2 6-4 倉光(關大) 6-3 3

東西學生對抗試合

十一月二十三日、於甲子園コート

山岸(慶應) 7-5 7-13 倉光(關大) 5-7 15

廣瀬(關大) 4-6 7-5 上田(名高商) 6-3 6-2

山岸(慶應) 7-5 6-2 倉光(關大) 7-5 6-2

野球部

對慶應大學

十一月七日、於甲子園球場

關西大學 6-3 慶應大學 3-0

慶大(0002000000116) 00100000113

ベツテリイ(關大) 釣(富川) 中田、高木、櫻井、井上

對ハワイ軍

十一月十一日、於西宮球場

ハワイ 3A-2 關西大學 00020000002

關大新人對早大新人

十一月十二日、於藤井寺球場

早大新人 3A-2 關大新人 0000000010002

關新(00100000010002) 早新(000000020013)

ベツテリイ

關新(宗内) 吉川、酒井、松井、小野

對明治大學定期戰

十一月十三日、於慶屋川球場

明治大學 7A-4 關西大學 00011000002

關大(00031002001A) 00031002001A

ベツテリイ

肥下、岡本、宮川、清水、長谷川、東本、塚越

對明治大學

十一月十四日 明治大學 SA-3 關西大學 0000003000A

關大(00200040002A) 00200040002A

ベツテリイ(關大) 釣(富川) 兒玉、東本、櫻井

對八幡製鐵所

十一月十八日、於八幡大谷球場

八幡製鐵所 9A-2 關西大學 9A-2

對八幡製鐵所

十一月十九日 八幡製鐵所 6-3 關西大學 6-3

十一月二十四日、於藤井寺球場

早大專門部 14A-2 關西大學 14A-2

卓球部

全關西學生秋季リーグ戰

十一月七日、於大阪南大 (Aリーグ)

關西大學 6-1 浪速高商 6-1 大阪齒專

關西大學 4-0 神戸高商

第二部優勝試合

關西大學 4-2 和歌山高商 (本學選手) 塚本、坂田、若林、谷口

大阪學生秋季リーグ戰

十一月二十一日、於大阪南大 (Aリーグ)

關西大學 3-2 大阪外語 3-2 大阪齒專

關西大學 3-2 大阪帝大 3-0 關西大學

大阪高醫 3-0 關西大學

Aリーグ成績順位

①大阪帝大 ②大阪高醫 ③關西大學 ④大阪齒專 ⑤大阪外語

Bリーグ成績順位

①大阪高校 ②浪速高校 ③關大專二 ④關大專一 ⑤大阪藥專

シングルス准々決勝

青木(大阪外語) 2-1 坂田(關大)

ダブルス准決勝

谷口(關大) 2-0 小谷(大阪帝大)

松浦(大阪高醫) 2-0 堀田(關大)

石原(大阪高醫) 2-0 若林(關大)

ダブルス決勝

松浦(大阪高醫) 2-1 谷口(關大)

蹴球部

關西學生リーグ戰

十一月七日、甲子園南運動場



第一部

審判、大谷(主) 林、北濱(線)

關大先蹴

京都帝大 2 (1 1 0) 0 關西大學

十一月二十一日、於甲子園南運動場

審判、赤川(主) 河本、高橋(線)

關學先蹴

關西學院 3 (2 1 0) 0 關西大學

十一月二十八日、於甲子園南運動場

審判、赤川(主) 北濱、朝田(線)

神戸高商先蹴

關西大學 1 (0 1 0) 1 神戸高商

十二月二日、於甲子園南運動場

審判、後藤(主) 木戸、岡野(線)

關大先蹴

關西大學 3 (2 1 0) 0 神戸高商

(本學メンバー)

谷原 垣川 島野川 竹福 山

林 吉 田 小

種篠 石上 中淺小 西安 小

F.W H.B F.B G.K

米式蹴球部

對慶應大學戰 第三回

十二月十一日、於甲子園南運動場

審判、林(主) 齋藤(副) 稻若(線)

慶應 21 (7 7 0 0) 7 關西大學

手 田本本本村林村伯内井

選 吉岡藤秋濱北小岡佐山坪

本學 LETG G T R E B H H B

LL L C R R R Q L R F

(交替選手) 橘谷、丹羽、藤井、奥野

橋部、吉岡、村澤

ラグビー部

對大阪帝大戦

十一月六日、於花園競技場

關西大學 33 (13 20) 12 大阪帝大

對法政大學定期戦

十一月十四日、於元住吉

法政大學 46 (17 29) 6 關西大學

十一月二十三日、於大阪商大

關西大學 23 — 6 大阪商大

十一月二十七日、於甲子園南運動場

神戸商大 22 (6 16) 16 關西大學

6 11 6

關西團體リーグ戦

十一月八日、於大阪YMCA體育館

大阪YMCA 20 — 11 關西大學

大阪商業 20 — 9 關西大學

全日本選手権フオイル關西豫選

川崎(OF C) 5 — 0 谷(關大)

福田(OF C) 5 — 3 田中(關大)

大阪YMCA開館記念競技會

稻津(阪大) 5 — 2 木戸(關大)

八尾(關大) 5 — 3 竹内(阪大)

龜谷(阪大) 5 — 3 田中(關大)

馬術部

關西學生爭霸試合 第六回

十二月十一日、於堺騎兵第四聯隊馬場

(減點法、上部勝)

關西大學 800 — 000 大阪工專

神戸商大 200 — 000 關大專門部

十二月十二日

準優勝戦

關西大學 100 — 100 神戸高商

優勝戦

關西大學 100 — 000 天理外語

廣谷 32 (保舟) 35 富宅

安藤 29 (藤雲) 8 吉田

宮本 31 (岩宮) 19 清國

中野 14 (靜花) 150 中島

相撲部

全國學生大會 第十九回

十一月十三日、於堺大濱土俵

第一回戦

關西大學 3 — 2 同志社高商

關西大學 3 — 2 水産講習所

第三回戦

關西大學 4 — 1 東京藥專

同高商 森元 河村 中屋 西村 大松

水産講 〇 〇 〇 〇 〇

東京藥 〇 〇 〇 〇 〇

(優秀十校)

①東京農大 ②立教、關學、拓大

③京醫大、日大、慶應、明大

④名高商、東京醫專

⑤關大、早大、同大、日齒、立命大

⑥北大

拓殖大學 5 — 0 關西大學

(個人戦勝者)

①A組 大松、森元 B組 河村

②A組 大松、森元 B組 河村

③A組 大松 B組 河村

高田(同志社) げ すくひな 大松(關大)

佐藤(拓大) よりきり 河村(關大)

拳闘部

全日本アマチュア大會 第十回

十一月二十七日、於甲子園特設リンク

フェザー級准決勝

稻田(關大) 打倒一回 川田(中部)

十一月二十八日

### フライ級決勝

濱口大二郎 判定延 洪 應 奎 (關東)

### フェザー級決勝

稲田信男 判定 康 仁 陽 (關東)

## 柔道部

### 近畿武道大會 第九回

十一月二十八日、大島神社神前廣場

(乙組)

優勝、關大専門第二部

## 弓道部

### 對大阪外語戰

十一月二十三日、於大阪外語

大阪外語 33——31 關大専門部

## 拳法部

(専門部一部)

十一月中旬、昭和十三年度幹部を左の如く決定す。

(主將)若園 榮 (副將)波田野福雄

(マネージャー)嶋村岩楠

國家非常時の際、我等拳法道を學ぶ若人は、明治節佳日に洪水會道場に於て、關志滿々善戰す。

尙このたび關西學院の拳法部が再興した事は、我等にとり良き競争者を得たことであり、一層の奮起を期してゐる。

## 山岳部

### 學内ハイキング大會

十一月七日、例年行事の一つたる學内ハイキング大會を行ひ、途中にて登山競走を行つた。時正に未曾有の非常時に直面して國民の緊張せる時、登山は體位向上週間の趣旨に最も合致せしものと確信す。參加者三十名  
登山競走一等(經二) 奥平君 52分40秒

## 射撃部

### 對立命館大學戰

十一月十一日、於大阪城南射場

關大専門部 523——535 立命館大學

### 關西學生秋季戰

十一月十四日、於大阪城南射場

### (團體)

①三高 2999 ②關大専門部 2723

③關大 252 ④同志社大學

⑤同志社高商

### (個人)

①朝比奈 (關大専門) 43

②近藤(同志社大)

③佃 (三高)

④佃 (三高) ⑤廣岡(三高)



## 大學院研究會

今回夫々の分野に於ける研究的業績の討論と批判に因いて學問的親睦を企圖せんとして誕生した本研究會は去十一月廿六日(水曜日)午後一時半より野村、木村兩教授の御出席を得て、其第一回會合を開催した。最初に野村教授の會の趣旨と意義に關する御挨拶の後、次の主題に關する發表と批判があり、ナチス最近の法律的實踐に就き意見の交換があつた。

越智 弘氏「ナチス最近の國際法思想の矛盾と其擁護」

先づナチスに於ける國際法理論の展開を本年九月頃迄に上梓された諸文獻に依つて素描した後それ等が内色する理論的矛盾を各々の論者に就て明らかにすることにより之が傳統國際法學に對する地位を検討し、最後に勞農露西亞の國際法的實踐への對蹠的相剋をボツクホフの新著を中心として指摘した。終つて出席された兩教授からナチス最近の法的實踐に對して夫々の御質問があり、十二月一日非常時軍營の干城となられる會員甲川氏へ一同の心からなる送別の言葉があつて午後四時散會した。

## 東亞研究會

### 第二回親睦會

晩秋の奈良公園に親睦會を開いた。春日に武運の長久を祈り藤塚君の案内にて奥山を廻る。君の御案内と良い天氣とに心から感謝し乍ら。  
我等の會歌

此の程作成せられ、十七日夜リブトにて發表せられた。

一、祖國日本の歩調を

太平洋の濤に聽け

青年の意氣高らかに

東亞の空に雄飛せむ

生命ぞ若く我に在り

道踏み分けていざ行かむ

久遠の眞理超ける

東亞の文化築くべき

理想ぞ高く我に在り

今こそ起たむ時來る

興亡治亂に惱みたる

東亞の民を救ふべき

使命ぞ我に在り

自由の旗を仰ぎ見よ

正義の歩み堂々と

東亞の平和打ち進む  
力ぞ強く我に在り

十二月八日 校内にて昭和十三年度卒業生石田指岐兩君への記念品贈呈式並びに茶話會を開く。

十二月十一日 日本橋日ノ出館にて武田先生御出席の下に本年度卒業生の送別會を催し、我等は「東光」の發行、討論會開催等、東亞研究會の功勞者たる石田指岐兩君の幸福なる前途を祝つた。

### 佛教青年會

秋季佛蹟巡拜 十月十日(日)一行は三枝樹會長他賛助員六名、會員九名にて山城大和の國境にある九體寺、岩船寺を巡拜す。

佛教學生聯盟十月例会 十月十日夜津村別院に於て開催。浪高、阪大、大阪齒專、商大、等各々數名宛代表者集り、我が關大よりは代表二名それにアウトサイダとして専門部學生二名出席し、各校佛青の業績並に計畫に就いて語つた。

戦死病没殉難者追善法要 十一月十一日(月)上本町五丁目天性寺に於て關大佛青主催にて執行。三枝樹正道會長、賛助員河村信一教授の他に佛青會員九名、他一般來詣者老若男女數十名あり、天性寺住職岡崎惠應氏が導師唐仙寺住職が副導師として執行した。法要後三枝樹會長

河村教授、及び椎尾辨匠氏門下の精神運動家森脇氏等の時局に因んだ講演があつた。

戦勝祈願祭 十月十七日中之島豐國神社に於ける戦勝祈願祭に佛青會員も参加した。

學聯秋季總會 十月三十日近江野州の木邊寺に於て開催、本學より田中敏衛他三名參會、琵琶湖畔で靜に教義を研究し信仰を練つた。

非常時局講演と映畫大會 十二月三日午後六時より、關大佛青主催、關西學生佛教青年會聯盟、難波元町第四青年團後援の下に舉行せられた。

#### 一、開會の辭

本學佛青會員 田中 敏衛君

一、學生の眼に映じたる時局

右同 頼尊 公俊君

一、戦時經濟體制下に於ける諸特徴

右同 堀口 尙君

一、教育と宗教 本學佛青會長

一、國難に際し補公の誠志を偲ぶ

陸軍中佐 大河原 基氏

一、日本建國精神と其の擴充たる滿洲國建國精神並びに佛教的諸民族に就きて

本學教授 大山 彦一氏

#### 一、挨拶

難波元町第四青年團幹事

#### 一、閉會の辭

本學佛青會員 宮下 隆慈君

何れも熱心に時局を批判解剖せられ、殊に大日本皇道と佛教の大乗精神との一致戦時に於ける佛教の國家的意義に就き力説せられ、講堂に溢るゝ千數百名の聽衆は何れも熱心に耳を傾けた。講演終了後大毎、東日、國際ニユース其他映畫數卷の映寫あり、斯くて十時半、國民精神動員、時局認識強化の上に多大の効果を收めて散會した。

### 基督教青年會 (千里山)

#### 『秋季特別聖書研究講座』

「信仰と理性」 櫻井繪二郎氏

十一月廿五日 哲三教室

全 廿六日 哲二教室にて

第一學期の研究會は「基督教史」の題目の下に、西洋思想史並に文化史上最も重要な位置を占めた基督教の歴史的發展の跡を辿り、各時代にとつたその外観と特質とを概説研究したが、特に「マルチンルーテル」以後一本講座に於て基督教史に對照して各論的な意味より信仰課題を選んだ。猶基督教史研究未完部分は参考書として選定した、石原謙著、基督

教史(千里山圖書館藏)を讀まれ度い。又福音啓蒙著、原始基督教(圖書館藏、本會寄贈)も好箇の資料である。

『時變とYMCA』本學青年會の加盟せる日本基督教青年會同盟に於ては既報聲明を發し、特別事業に努力し、協力を求めつゝあり、本學青年會は十一月定例集會の際に學生、卒業生會員一同據金し同盟に送付せり。同盟時局特別事業部事業左の如し。

#### 一、軍隊慰問事業

二、海外輿論の是正 特に海外基督教界、外國YMCA、海外大學YMCA及圖書館に對し

三、皇軍所在地に於ける文化的事業

四、内外人避難者の救護

五、留日中國基督教青年會財産保管及殘務引繼

一、十一月六日 世界基督教青年會祈禱週間祈禱會、本田(豫科) 木下(學部) 派遣

本年の主題は "Looking to Jesus"

一、十二月四日 全大阪學生聖降誕祭禮拜は全員出席

『月例家庭集會』

十一月度本田浩幸兄宅にて

十二月度小倉眞一兄宅にて



## 基督教青年會 (專門部)

我專門部基督教青年會は、昨秋復活以來益々内容の充實向上を圖り、本會の使命遂行に著々忠實な歩みをつけて来たのでありますが、今秋に到り、本會の規約を編成し、役員の選舉をなし基礎いよ<sup>く</sup>鞏固となり、會員は未だ少數なれども一致協力の下に層一層聖旨を正しく辨知し同時に靈火によつて祖國の爲め盡忠報國の誠を致し、本會の使命に向つて邁進せんとしておます。

本會は毎月第一金曜日、例會を開催し會員相互の證言及び親睦をなし、又講師を招きて特別集會をなし、會員の靈的智識向上につとめておます。本年度に於ては林幸金先生、本學先登櫻井牧師の御來校を願つて有益なる講演會を持つことが出来ました。

學友諸兄本會の趣旨をよく體せられ御援助と御入會を切望致します。

記、本會につき御照會は左記へ

大阪市大正區小林町五九 中川敏男

## 新聞部

今や吾が國は非常時局に際會し、あらゆる部門に亘つて精神總動員のなされてゐる事は文化の重要性を強調するものであり、正しい文化の發展を希ふ事は吾等國民の等しき希ひである。

學生文化の正しき發展と向上を願ふ關西各大學新聞編輯部に於ては明治節の佳き日にあたり各學生新聞の親睦を圖り學生文化の綜合的發展を企圖し關西學生新聞聯盟を結成した次第である。この事は吾等學生の學生的義務であり國民的希望でなければならぬ。

而も文化は交流する事によつてのみその正しき進歩と發展が約束されるものなるは既に先輩のこした不古の言である。今幸に六校の聯盟參加員を得たる事は吾等の喜びても餘りある處である。今後吾等は所期の目的に従ひ圓滑なる統制の計に學生文化の向上、發展に寄與せん事を誓ふものである。

十一月三日

(加盟校)

關西大學新聞

關西大學學生新聞

關西大學學友新聞

(當番校)關西學院新聞

大阪日大新聞

龍谷大學新聞

## 辯論部 (專門部一)

國民精神總動員、防共確立學生辯論大會を南京陷落祝賀を兼ねて、關大生長の地、福島大阪商科女學校講堂に於て開催す、其の日十二月十二日(午後五時半)嚴寒肌身を割くが如き歳末繁忙の時にも

不拘、聴かんとして來る者二百數名、多數の優秀辯士が本事變に對する前後策を政治的、經濟的思意的方面にわたつて熱辯す。最後に吾が部長古川武教授發聲のもとに萬歳三喝盛會裡に暮を閉ず。

尙會終了後牛尾前年度總務の部に對する業務の説明及其に付いての意見及末廣新總務の今後の部を維持し更に發展せしめんが爲の會談ありたり。

## 計理クラブ

第五十三回例會を十一月二十日午後六時より大阪ビル四三六號室において開催まづ關西學院大學教授青木倫太郎氏より「非常時と會計」第三講として現下の非常時局における原價計算論のすゝむべき方向について講話あり、本學講師木村禎橋氏よりも會計問題につき種々指導を受け、午後十時散會した。因に本クラブは木村講師を指導者として本學出身者をもつて組織し、毎月一回(土曜日)例會を開いてゐるものであるから、在學生、卒業者諸氏にして會計學を研究せんとする人、計理士たらんとする人、或ひは斯學に興味を有する有志諸彦の來會を歓迎する。

## 國文學會嵯峨野廻遊

江馬先生の御案内で嵐山法輪寺を右に

## 浪曲研究會

十二月十四日正午より我が浪曲研究會後援のもとに女流浪曲總動員して傷痕軍人慰問資金募集大會を天滿國光本席に於て開催盛會裡に之を終る。

尙引續き十三年度への事務引繼を行ひ會長に山根、總務兼會計に目川とそれれ決定をみたり。

見て、渡月橋を渡り、角倉別邸、臨川寺に行き、小督の墓に琴の音をしのんで天龍寺、遊女夕霧の墓、謠曲の百萬の墓を詣で、釋迦堂よりぬけて、小楠公の首塚と足利義詮の昔を忘れて竝んでゐるのに參り、厭離庵に藤原定家の墨水を見て、坂を上れば祇王寺です、祇王祇女の木像に、其の昔、佛御前をおこなひすませし面影を拜し、瀧江寺に、横笛を思つて、山腹を傳へば、古學派の伊藤仁齋、東涯先生の墓所に出ます、續いて古今傳授の三條西實隆の墓石の昔をはらつて、急坂を下れば、いつの間にか二尊院に出来ました、此より刈田の道を進んで、有智子内親王様のお墓所に頷ぎました、すぐ隣の落柿舎に柿の去來の風雅を思ひ、野の宮に參つて、嵐電嵯峨に歸つたのは、四時、一行十五人、十二年十二月十二日、十二分に嵯峨の初冬を楽しんで開散。



朝 冷 選

第十六回十一月例会

防空演習下の十一月二十日(土)午後六時半より、遮蔽幕内に非常時局たるを深く認識しつゝ開催す、採録句は左の通りであつた。

安井 龍章

新刊書續く秋陽眼に強く  
死の圓舞秋蛾は遂に隨ちとばす  
菊齋るロビー戦話に淑女らも

(燈火管制)

狂はしく管制號笛なり汽車は闇を衝く

神屋敷蒼生

巫女舞へり破邪の御劍ひやゝかに

(防空演習)

ネオン消え街は沈みぬ秋今宵

谷口 涼一

戦捷のニュースめでたき夕冷ゆる

芒穂の白しほのかにやくる空

永幡 彌壽夫

鴉! 厨に辨當待てる子に

懸崖菊に障子あかるき一間かな

中塚 素木  
古りし窓に山遠くあり秋日ざし  
上田 呂史

菅制の學會は冬の月にぬれ

苗松が大の砂丘の小春かな

黒杭 豆刀

乳離れの子にひやゝと雁渡る

風を病む子に歸へり来て靴を脱ぐ

朝冷を乳吐けば乳白きもの

(日曜日)

ふきたての芋ほこゝと新聞と

無名 生

夜長く夢は北支の空かくる

内藤 秋布

時雨ると白き手動きタイピスト

牛鳴きぬゴブラが黄ばむ風吹けば

末黒暗れ雞は鬨ふ暇ありぬ

岸 風三樓

ぶどう園枯れ金剛はみどりなる

夕紅葉下り來をとめも軍歌和し

軍歌齊唱下り來て秋の驛灯れり

燈炉の黄めがねに歪み電波守る

冬うばら影もち電波守りて夜も

飯田 正一

煮こぼれの汁にほふなり秋時雨

秋刀魚焼く妻に號外投げ入れぬ

投 句

馬場 洗月

校友會員名簿申込者に告ぐ

昭和四年以來校友會員名簿は基金制度に依つて發行して居りましたが、逐年加算度的の會員増加に伴ひ頁數も著しく増大し、本年度は五百頁を突破する状態であり、加ふるに物價騰貴に依り印刷費も大約壹千圓を要します、然るに基金は廉に過ぎ、本年度基金殘額は貳百餘圓で印刷費の四分の一にも足らぬ現況で該制度にては到底發行は不可能です。

既に申込まれた諸氏には甚だ申譯なき次第であります、事情御諒察下さいまして、本年限り右制度を廢止する事に御認め下さい。尙本年度(昭和十二年)名簿は大學の補助によつて來る二月下旬發行し、お届け致します。

昭和十三年度よりは校友會々則を改正の上發行する豫定であります。  
昭和十二年十二月

關西大學校友會

大正十一年七月十五日創刊  
昭和十二年十二月廿五日印刷  
昭和十三年一月一日發行

神苑の朝輝る御代の光りかな  
鳩群る、神苑の木々の初明り  
寒椿匂ふ朝のしじまかな  
大遊ぶ雪の朝の寒椿  
餅搗に大七輪の明りかな

一月例会豫告

學報俳壇一月例会を、左の通り開催致します、學友同好諸君の御出席を希望します。

日時 一月二十二日(土)午後六時  
場所 天六學舍三階會議室

「當季雜詠七句」

有田朝冷先生出席

不許複製

編輯 神屋敷 民藏  
印刷所 谷口印刷所  
發行所 關西大學學報局

關西大學  
天六學舍 大阪市東淀川區長柄中通

本部電話 五〇三九  
專問部電話 二七六八  
振替 大阪二六七五〇  
千里山學舍 大阪市外千里山

學報部 電話 吹田四一六三

關西大學學會發行

# 關西大學 研究論集

第一號	昭和九年十月發行
第二號	昭和十年六月發行
第三號	昭和十一年七月發行
第四號	昭和十二年一月發行
第五號	昭和十二年十一月發行
第六號	昭和十二年十一月發行

發賣所 甲文堂書店

大阪市東淀川區長柄中道 振替六二五三〇番

## 第七號 法律・政治篇

(昭和十二年十一月發行)

- 天皇主權……………教授 吉田 一枝
- 天皇統治に於ける臣民翼贊の意義……………教授 岩崎 卯一
- 滿洲國新政治組織……………教授 大山 彦一
- 集會結社の警察制限……………教授 中谷 敬壽
- 既得權の國際的尊重の原則に付て……………助教授 柳瀬 兼助
- 法律解釋の現段階……………教授 和田 豊二
- 明治初期の身元保證……………教授 西村 信雄
- 衝擊に續く肉體的損害の賠償に付いて……………教授 本莊鐵次郎
- 婚約法と内縁法……………教授 木村 健助
- 商法第十九條(商號排他性の原則)を論ず……………教授 野村 次夫

## 第七號 經濟・商業篇

(昭和十二年十一月發行)

- 營業稅の課稅物件……………法學長 神戶 正雄
- コンラアドの流通經濟機構……………教授 赤羽豊治郎
- ナチス經濟再建の組織……………教授 磯部 喜一
- 商業經營經濟及賣買活動に就ての若干の考察……………教授 加藤金次郎
- 輕市に就きて……………教授 瀧澤喜子雄
- 世界經濟の段階的及成層的構造……………教授 中川庸太郎
- 日本國民性の世界史的意義……………教授 古川 武
- 金融統制と我國の經濟情勢……………教授 正井 敬次
- 信用資源と金融市場……………教授 森川 太郎

## 第七號 文學・哲學篇

(昭和十二年十一月發行)

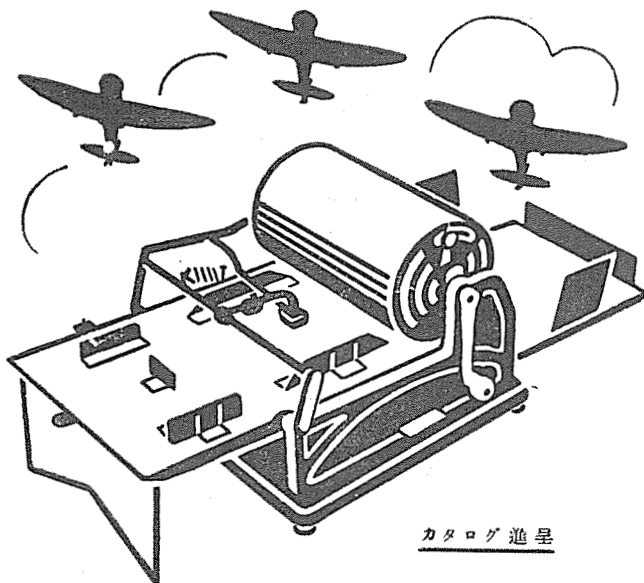
- 教育理想としての菩薩道……………教授 三枝樹正道
- 孟子の檢討……………教授 藤澤章次郎
- キエルケゴールの實存段階……………教授 大小島眞二
- 詩人ハイネ素描……………助教授 板倉 軻音
- Aldous Huxleyの背後……………教授 堀 正人
- Noel Cowardの戯曲……………教授 山田松太郎
- Expanded Forms に於ける主觀性……………助教授 八鳥 治一
- 增加率論……………教授 河村 信一



# 國產 **ロンド** 輪轉謄寫機

## 新銳 6 號機 の 發 賣 /

陣中に、銃後に、なほ 事務の第一線に 活躍してゐる、弊  
 社發賣の 國產**ロンド**輪轉謄寫機に、今回 更に 新銳無比  
 な 6號機を 加えて、一層 能率陣を、強化することに  
 致しました。お申越次第 一定期間中は フリー・トライアル **ご試用料無法** に  
 より、お試し願う ことと、致しますゆえ、何卒 ご用命  
 の ほど お願い 申上げます。



カタログ 進呈

10號自動給紙型	6號自動給紙型	5號普及型
¥ 390.00	¥ 145.00	¥ 95.00

大阪東區博勞町  
(心齋橋北)

**丸善大阪支店**

代表電話  
船場 1020番